

平成 29 年度文部科学省委託事業  
「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」

# 地域社会における大学としての 仕事・学び・子育ての両立支援のための 保育環境整備検証事業報告書

国立大学法人 山口大学  
ダイバーシティ推進室  
平成 30 年 3 月

## 目次

山口大学長 挨拶	1
山口大学 理事・副学長（ダイバーシティ推進担当） 挨拶	2
ダイバーシティ推進室長 挨拶	2
I. 山口大学のダイバーシティ推進及び男女共同参画の取組について	3
II. 平成28年度「大学等における保育の仕組みづくりのモデル構築に係る 実証的検証実施委託事業」	
1. 事業の概要	4
2. 検証結果	5
3. 検証事業後の現状の保育制度について	5
III. 女性の学びを通じた社会参画のための保育環境整備とキャリア形成支援 の一体的な取組推進に係る実証的な検証	
1. 事業目的	7
2. 取組内容	8
3. 運営体制	12
4. 実施方法等	14
5. 本検証事業の運営実績について	17
6. 本検証事業により把握できたことについて	21
7. 検証結果について	27
8. 終わりに	27

# 目次



参考資料 ..... 28

## アンケート調査結果

1. 一時保育利用者（学内教職員） ..... 32

2. 一時保育利用者（学外一般） ..... 35

3. 保育サービス講習会（初級編）受講者 ..... 39

4. 保育サービス講習会（中級編）受講者 ..... 41

5. 山大保育サポーター ..... 45

## ご挨拶

### 山口大学長 岡 正朗

男女共同参画社会の実現は、国、地方公共団体、国民すべてに課せられた責務であり、高等教育機関としての大学においても、その一翼を担うことが求められています。

今後、ますます労働人口が減少する中で、性別、国籍、年齢などに関わらず多様な構成人が、各自の個性と能力を最大限に発揮できるような環境や組織づくりが重要となってきます。

本学におきましては、平成24年12月に男女共同参画推進室を設置し、「男女ともが働きやすい職場づくり」を目指し、取り組みを進めたところ、次世代育成支援対策への積極的な取り組みが高く評価され、平成27年7月には厚生労働省から「子育てサポート企業」として「くるみん認定」を受け、また山口県から「やまぐち子育て応援優良企業表彰」を受賞し、「やまぐち男女共同参画推進事業者」として認証されました。

平成26年8月には女性研究者支援室を設置し、文部科学省の女性研究者研究活動支援事業に採択され、特に女性研究者の支援を加速的に推進し、女性研究者を育成することを目的として、ライフイベントへの支援や情報交換のためのネットワーク作りなど、各種制度の整備を進めてきました。

そして、平成29年度からは男女共同参画推進室と女性研究者支援室を統合して、ダイバーシティ推進室を設置し、本学が掲げる「ダイバーシティ・キャンパスの実現」を目指して、大学を構成する者の性別、国籍や年齢などについて、積極的に多様性を高め、さらに、各自の個性と能力が最大限に発揮できるような労働環境の整備と充実に現在取り組んでいるところです。

また、平成28年度文部科学省委託事業「大学等における保育の仕組みづくりのモデル構築に係る実証的検証実施委託事業」に引き続き、平成29年度は前事業の発展事業である「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」に採択され、「地域社会における大学としての仕事・学び・子育ての両立支援のための保育環境整備検証事業」を実施いたしました。

本事業にご協力頂いた地方公共団体や地域の皆様を始め、関わっていただきました多くの皆様に、心より感謝申し上げます。今後も引き続き、地域社会づくりの場で活躍できる女性への支援として、学びの場としての大学ならではの取り組みを進めていきたいと考えておりますので、皆様の御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。



山口大学 理事・副学長（ダイバーシティ推進担当）

### 田中 和広

少子高齢化の進行により、女性やシニアの社会参画が不可欠な時代となってきています。本学では、平成 28 年度「大学等における保育の仕組みづくりのモデル構築に係る実証的検証実施委託事業」において、一時保育を中心とした学内教職員・学生への学業・研究・業務と子育ての両立を安心して行うことができる環境を整備しました。平成 29 年度はこれまでの活動を発展させるため、対象を地域へ広げ、地方公共団体等と連携し、一時保育を実施する中で学外の子育て世代・潜在保育士・シニア世代の社会参画に向けた支援を新たに行う事を目的とした「地域社会における大学としての仕事・学び・子育ての両立支援のための保育環境整備検証事業」を実施しました。



本事業により、子育て世代・潜在保育士・シニア世代へ学び直しや社会参画のための学ぶ場を設けることにより、復職や新たな社会参画を促すとともに、就業の機会も提供する事ができました。この成果をさらに発展し、地域に貢献できる大学として取り組んでいく所存です。引き続き、御支援、御協力をお願いいたします。

山口大学 ダイバーシティ推進室長

### 鍋山 祥子

山口大学では、それまでの男女共同参画と女性研究者支援の流れを引き継ぎ、平成 29 年 4 月にダイバーシティ推進室を立ち上げました。性別、国籍、年齢、障がいの有無や性的指向などのさまざまな多様性を活かすことのできる組織にするためには、個々の構成員の意識の醸成と同時に、仕事と生活の両立を妨げているような障壁を取り除く実際のサポート体制が必要となります。平成 29 年度の「地域社会における大学としての仕事・学び・子育ての両立支援のための保育環境整備検証事業」においては、山口大学の教職員、学生、大学での学びに参加される社会人やシニアの方、また地域の各専門機関などを繋げるという新たな試みを行うことができました。その結果、山口大学だけでは成し得なかった「仕事と学びと子育て」の両立支援の仕組みが検証でき、その成果を地域に返すことができたと思います。



今後も、地域とともにある山口大学として、積極的に関係各所との連携をさせていただきながら、さらなるダイバーシティの推進に取り組んでいきたいと思っております。

## I 山口大学のダイバーシティ推進及び男女共同参画の取組について

本学では、「男女が共に働きやすい職場づくり」を目指し、平成 24 年度に「男女共同参画推進室」、平成 26 年度に「女性研究者推進本部（本部長：学長）」及び「女性研究者支援室」を設置し、男女共同参画の実現，それに加えて，女性研究者支援，女性研究者の裾野拡大に取り組んできた。その結果，厚生労働省から次世代認定マーク「くるみん」の取得（平成 27 年度），山口県から「やまぐち子育て応援優良企業表彰」の受賞（平成 25 年度），「やまぐち男女共同参画推進事業者」の認定（平成 25 年度），「やまぐちイクメン応援優良企業」として受賞（平成 27 年度）のほか，「やまぐちイクボス表彰」を本学情報環境部長が受賞（平成 29 年度）する等，高い評価を得ている。

平成 26 年度から平成 28 年度では，特に「女性研究者」を重点的に支援するフェーズとして，5 つの柱（①全学的な意識改革と価値観の共有，②ワーク・ライフ・バランス，③研究力向上支援，④ネットワーク構築，⑤女性研究者の裾野拡大）を掲げ，文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」の支援を受けながら各種施策を展開してきた。

平成 28 年度 12 月から 2 月までは，平成 29 年度実施事業「女性の学びを通じた社会参画のための保育環境整備とキャリア形成支援の一体的な取組推進に係る実証的な調査」の前事業である「大学等における保育の仕組みづくりのモデル構築に係る実証的検証実施委託事業」を実施し，学内教職員利用者のニーズに沿った一時保育のあり方について，問題点を把握し，その改善を図ることで，特に女性が育児と学業・研究等を安心して行うことができる環境を整備することを目的として，仮説モデルの構築と検証を行った。

平成 29 年度 4 月には，男女共同参画推進室と女性研究者支援室を発展的に統合した「ダイバーシティ推進室」を設置し，本学が第三期中期目標・中期計画に掲げる「ダイバーシティ・キャンパスの実現」を目指し，大学を構成する者の性別，国籍や年齢などについて，積極的に多様性を高め，さらに，各自の個性と能力が最大限に発揮できるような労働環境の整備と充実に取り組んでいる。



取得した認定マーク

## Ⅱ 平成 28 年度「大学等における保育の仕組みづくりのモデル構築に係る実証的検証実施委託事業」

### 1. 事業の概要

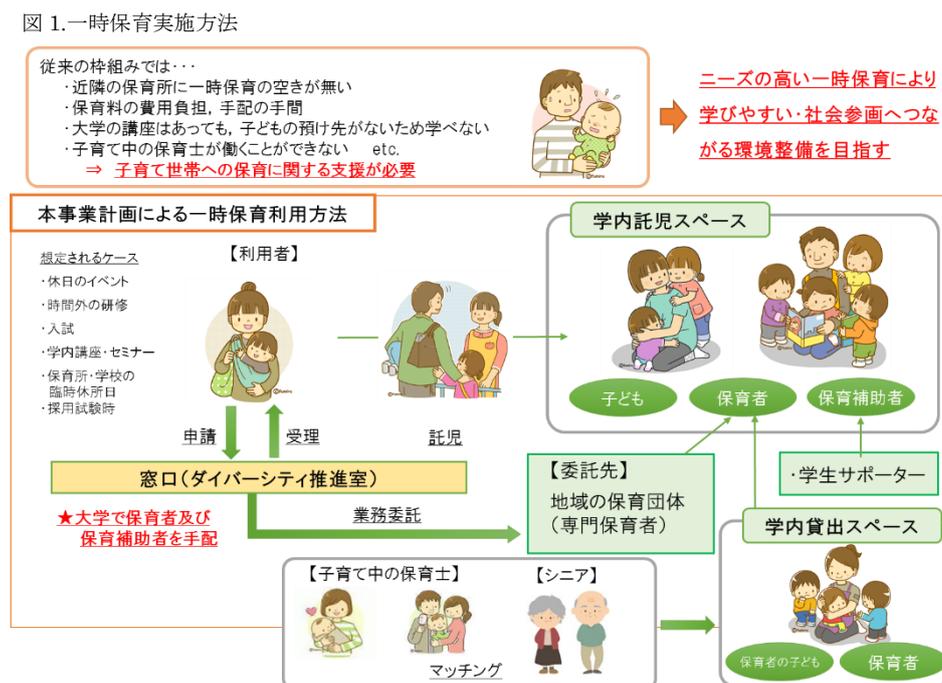
本学では、平成 26 年度から学内託児スペースを整備し、その利用方法について学内のホームページに掲載する等の手段により情報提供を行っていた。しかしながら、保育者の手配や費用などを利用者が全て負担することから、平成 27 年 4 月から平成 28 年 11 月までの 1 年 8 ヶ月の間の利用実績は 4 件に留まっており、利用者側のニーズとこれまでの一時保育のあり方に何らかのミスマッチがあることが考えられた。

そこで、平成 28 年度文部科学省委託事業「男女共同参画社会の実現の加速に向けた学習機会充実事業」における「大学等における保育の仕組みづくりのモデル構築に係る実証的検証事業」を実施し、利用者のニーズに沿った一時保育のあり方についての問題点を把握し、その改善を図ることで、教職員・学生への学業・研究・業務と子育ての両立を安心して行うことができる環境を整備することを目的として、仮説モデルの構築と検証を行った。

実施方法は、吉田キャンパス（山口市）の既存の学内託児スペースである大学会館音楽鑑賞室で、利用の可能性がある場合に事前登録し、1 週間前までの申し込み後、保育者をマッチングして一時保育を開設する方式で実施した。

また、学生を学生サポーター「山大保育サポーター」として登録し、養成講座を受講した後、専門保育者の補助者とする制度も併せて実施した。

以下に図 1 として、一時保育の実施方法をまとめたものを示す。



## 2. 検証結果

教職員等の意識については、事業実施後のアンケート調査より、職場に一時保育サービスが必要であるという回答が 85%にものぼり、一時保育サービスの必要性が確認された。これは、常設保育の必要性 71%、病児保育の必要性 81%を上回った。

この検証事業により、大学が窓口となって保育者手配や場所の確保を行うことで利用者の手間を省くとともに、地域の一時保育と同等額の利用率とすることで、従来の保育者手配や費用などを利用者が全て負担する方法と比べ、大幅な利用の増加が見込めることが分かった。また、大学が窓口となることによって、利用者とのつながりもでき、利用者が抱えている保育関係の問題や、自治体の保育状況などを把握することができるようになった。特に多かった利用理由としては、保育園に入所できず、幼稚園に入園した場合、休園や午前保育、長期休暇があり、その際の利用、また、保育園だけでなく学童保育でも待機児童が増加しており、学童保育に入所できず、長期休暇中に一時保育を利用している場合であった。学内一時保育の設置は、保護者の不安や負担の解消だけでなく、同じライフイベントを抱える教職員同士のネットワーク構築にもつながり、利用者それぞれが抱えている保育に対する悩みや状況、自治体の保育制度の状況が共有されることから、生活面や精神面の負担の軽減が図られ、さらに学内に子供を預けることの安心感から、業務上のモチベーションの向上等にも繋がることが分かった。

委託先である専門保育者への聴き取り調査では、一時保育は常設保育とは異なり、不定期に関わる保育となるため、保育者の子供への心身の健康状態、発達状態、行動特徴、食事の状況などの理解や、子供の環境や保育者に対するストレス、保育者と利用者との連絡や連携等、常設保育以上に配慮が必要であり、そのためのノウハウや知見を得ることができた。

専門保育者の補助を行った学生サポーターへの調査からは、熱意ある専門保育者による実践的な指導や子供たちとのふれあいの中から、今後の自身のキャリアを見つめ直すきっかけとなることや気づきが得られたことが確認できた。

各種アンケートや他大学への調査実施により、育児中の職員等の情報を集約することができ、一時保育として多様なケースに対応できるような保育体制が必要であることが分かった。課題としては、常設の一時保育ではないため、必要に応じて保育者の手配を行うことから、1週間前までの申し込みが必要で、急な利用希望に対しての対応が難しいことである。利用者からも当日預けることができる体制を希望する声もあった。

## 3. 検証事業後の現状の保育制度について

アンケート結果により、一時保育、病児保育の必要性が高いことを把握し、一時保育については、検証事業により構築した利用者の負担を軽減する仕組みを継続し、ダイバーシティ推進室において手配や調整を行うこととし、費用については、実費を利用者負担とすることで実施し、少しずつではあるが、利用件数が増加している。

また、病児保育については、平成 29 年 12 月「病児保育施設等利用助成制度」を開始し、

小学校 3 年生までの子を養育する職員が、病児又は病後児の保育施設に預ける場合に係る料金の 2 分の 1 の額（1 日 1,000 円を上限）を、年間 12 回を限度に補助することとした。

このほか、教職員の育児と仕事・学生の育児と学業の両立支援を行うことを目的として、アンケート調査、学長・理事と女性教職員との懇談会、育児・介護等のライフイベント中である教職員の茶話会等を実施し、保育に対するニーズを把握するとともに、医学部附属病院においては院内保育所での通常保育に加えて、新たに病児保育、夜間保育を開始した。吉田地区（山口市）での長期休暇中の学童保育も引き続き継続実施をしており、学生による学生サポーター「山大保育サポーター」についても配置し、実際の学童保育の現場で実践的な小学生教育を学ぶ機会を学生に提供している。また、教員や学生ボランティアによる体験学習プログラムの提供を行い、高い評価を得ているほか、地域のシニア世代との連携により、シニアが企画・運営する体験学習プログラムを実施し、それにより、世代間交流の実現と、地域のシニア世代の学び直しの機会を提供している。保育者の調整については、申し込みがあった場合に手配を行うため、原則 1 週間前までの申し込みとしているが、検証事業により得られたノウハウにより、利用実績のある者については、保育者の手配ができた場合に限り、急な申し込みでも対応できるようになった。



平成 28 年度の様子

### Ⅲ 女性の学びを通じた社会参画のための保育環境整備と キャリア形成支援の一体的な取組推進に係る実証的な検証

---

#### ■事業名称

地域社会における大学としての仕事・学び・子育ての両立支援のための  
保育環境整備検証事業

#### ■総括責任者

理事・副学長（ダイバーシティ推進担当） 田中 和広

#### ■事業推進担当者

ダイバーシティ推進室長・副学長補佐・教授 鍋山 祥子

#### 1. 事業目的

本検証事業では、次に示すモデル構築の検証を行う。

##### (1) 大学利用者への学びと子育ての両立支援

対象者を学内教職員・学生に限らず、大学を利用する者（科目等履修生、公開講座受講者、免許更新時の教員、大学内で開催するセミナー受講者等）に広げることで、子育てをしながら学びやすい環境整備を目的とする。大学内で開催するセミナーの中には、大学主催のセミナー（他署機関主催も含む）のほか、本検証事業で実施をする一時保育での保育サポーターを養成するための講座（保育サービス講習会（初級編））、地域の子育て支援事業に携わるための養成講座（保育サービス講習会（中級編））、地域子育て団体開催の「女性の社会参画のための支援講座」があり、本学が会場と一時保育環境を提供することで、子育て中の女性の復職や社会参画のためのスキルアップのほか、地域貢献にもつながる。

##### (2) 子育て中の保育士・保育サポーターへの支援

山口市内には保育士の資格を持ちながら、子育て中のために働くことができない女性も多く、ブランクが長くなれば復職を諦めたり、保育とは無関係の業務に携わる場合も少なくない。子育て中の保育士が働けない原因としては、①自身の子供の預け先の確保ができない、②短時間勤務などのフレックスな働き方ができないことなどが挙げられる。このような原因により働くことのできない子育て中の保育士のキャリア形成と再就職支援のために、地域団体（再委託業者）と連携をし、新たな保育方法の検証を行う。この検証により、資格を有する保育士の就労機会の提供にもなり、また学内一時保育の質も高めることができる。こうして育児期も保育スキルを落とすことなく働いてもらえれば、子育ての終了後に、再び地域の幼稚園や保育園でフルタイムとして働くことのできる人材として、活躍してもらうことができる。これは、現在、地域が抱える保育人材不足の解消にもつながる。

そのために本学としては、①自身の子供の預け先確保のために、学内の一時保育スペース以外に、子育て中の保育士の子供を保育するためのスペースの提供を行い、子育て中の保育

士の働き方に関するモデル構築の検証も併せて行う。②短時間勤務などのフレックスな働き方については、本学の一時保育利用が常時ではないこと、今回実施した講習会で保育者を養成し、保育者数の増加をすることでシフトの調整がしやすくなり、短時間の勤務が可能となる。

また、山口市は全国でもあまり例のない全中学校区に子育て支援拠点を設置しており、その拠点で従事できる保育者（保育士資格は問わない）を増加することは地域貢献にもつながるため、本事業では、保育士資格にこだわらず子育て中の女性を対象として実施する。

### **（３）シニア世代への支援**

山口県の高齢化率は全国４位と高く、特に山口市においては世界一のアクティブエイジングシティ（アクティブエイジングとは、健康寿命を伸ばし、年を重ねても生活の質が低下しないように、健康で安全に社会参加ができるように促すこと）を目指して「山口アクティブエイジングシティ構想」を策定しており、そのためには高齢者の能力を十分に活用し、安心して暮らせる社会を実現することが必要である。今回の検証において、幅広い世代が交流できる場として、地域団体（再委託業者）主催の養成講座（保育サービス講習会（初級編））を受講後、保育サポーターとしてシニアにも保育に携わっていただくことで、シニアの再就職や生きがいの創出にもつなげる。

### **（４）子育て中の保育士・保育サポーター・シニア世代の社会参画への支援**

本事業の保育サポーターとして従事していただく子育て中の保育士・保育サポーター・シニア世代が、事業終了後も子育て支援業務に就業できるよう地方公共団体や地域関係団体と連携し、地域子育て支援団体やファミリー・サポート・センターへの登録の橋渡しを行い、社会参画のための仕組みを構築することを目的とする。また、地域での子育て支援業務に従事していただく人材育成のために、本学主催の保育サービス講習会（中級編）を開講し、希望者に受講していただく。

### **（５）教職員・学生への研究・業務・学業と子育ての両立支援**

前事業において実施をし、ニーズの高かった学内教職員・学生の子供を対象とした一時保育を山口地区吉田キャンパスだけでなく、新たに宇部地区小串キャンパスでも開所し、育児と学業・研究等を安心して行うことができる環境を整備することを目的とする。

## **２．取組内容**

### **（１）地域**

#### **①再就職しやすい環境整備**

子育て中の保育士や保育サポーター、シニア世代が働くことのできる環境を整備することで、就職支援をすることができ、大学の一時保育にとっても人材確保につながる。また、

本学一時保育での就業経験をきっかけに子育てのために働いていない女性の意識改革や、地域子育て支援団体やファミリー・サポート・センターへの橋渡しも行うことで、本検証事業終了後も就業できる体制を整備する。

## ②保育者の増加

現在、女性の活躍を推進するにあたり、地域における保育者不足が社会的問題となっている。本検証事業では、「保育サービス講習会（初級編・中級編）」を開催することで、女性が活躍しやすい環境整備を支援し、保育者不足の解消に資することを目的とする。この講習会を受講することによって、保育や子育て支援事業に従事するために必要な知識や技術を習得することにより、「地域の中での子育て」を推進するうえで重要な役割を担う保育者を少しでも増やそうとする取組である。講習内容は以下に示す。地域子育て支援団体で従事する際には保育士資格は必須ではないため、潜在保育士に限らず、対象を「子供に関わる仕事に就きたいと思っている方」「子育て経験がある方」に広げて募集を行う。

### 【保育サービス講習会（初級編）】全8項目3時間（1日）

	内容	講師
1	地域の子育て支援	山口市子育て支援コーディネーター (保育士)
2	保育マインド	
3	子どもの「育ち」への理解	
4	健康管理と事故対策	
5	小児看護基礎知識	
6	年齢別配慮事項	
7	保育技術	
8	子育て支援の姿勢	

【保育サービス講習会（中級編）】全9項目 24時間（6日間）

	内容	講師
1	保育の心	山口市子育て支援コーディネーター
2	心の発達と保育者のかかわり	臨床心理士
3	障がいのある子の預かりについて	臨床心理士
4	身体の発達と病気	山口市健康増進課保健師
5	小児看護の基礎知識①	日本赤十字社山口県支部指導員
6	小児看護の基礎知識②	日本赤十字社山口県支部指導員
7	事故による子どもの障がい －実態，予防，応急処置－	日本赤十字社山口県支部指導員
8	子どもの生活へのケアと援助	山口市子育て支援コーディネーター
9	子どもの遊び	山口市子育て支援コーディネーター
10	子どもの栄養と食生活	山口市健康増進課管理栄養士
11	子育て支援サービスを提供するために①	山口市子ども家庭課
12	子育て支援サービスを提供するために②	山口市ファミリー・サポート・センター

③地方公共団体や地域との連携

「保育サービス養成講習会（初級編・中級編）」の講師を本学の専門人材が務めるだけでなく、地域の子育て支援団体や地方自治体、子育て支援に係る中間支援団体等から派遣を受けるとともに、共催や後援の協力を得て実施を行う。連携内容は以下に示す。

【地方公共団体等との連携】

地方公共団体等	連携内容
一般財団法人 女性労働協会	後援
日本赤十字社山口県支部	講師派遣
山口市	後援と講師派遣
山口市ファミリー・サポート・センター	共催と講師派遣
子育て支援グループ「ママキューピット」	共催と講師派遣

④女性の学び支援

女性のリカレント教育や学びのために、大学においてセミナーを開催し、セミナーに無料託児を設置することで、子育てをしながら学びやすい環境整備を行う。

ママのためのイクメンプログラム「パパの気持ち・ママの気持ち」	
講師	地域子育て支援団体 保育士
実施日時	平成 29 年 12 月 8 日 13 時 00 分～14 時 00 分
対象	乳幼児の子育て中の女性・妊娠中の女性
目的	父親の育児参加に関する母親の理解を深め、夫婦共同での子育ての推進により、男女ともワークライフバランスの充実を推進する。

アメリカで学ぶ！多文化共生，グローバルリーダーとは？？	
講師	在福岡米国領事館首席領事
実施日時	平成 29 年 12 月 12 日 16 時 30 分～18 時 20 分
対象	学生・教職員・一般
目的	女性リーダーのロールモデルである女性首席領事の紹介による女性活躍の裾野拡大，増加する留学生への地域住民の理解増進，教職員の意識改革を目的とする。

多様性&就職&知的財産 国連セミナー	
講師	元国連職員
実施日時	平成 30 年 1 月 24 日 10 時 30 分～11 時 30 分
対象	学生・教職員・一般
目的	「子育て」と「仕事（キャリア）」の両立について、「働きながら子育てをすること」ということをテーマとし，自身のワークライフバランスや周りの意識改革を目的とする。

## (2) 大学

### ①全学的な意識改革と価値観の共有

一時保育の実施を全学的に周知し，大学の保育支援に対する積極的な姿勢を示すことで，大学構成員の保育に対する理解がさらに促進され，学業や研究，業務の両立をしやすい機運の醸成や意識の変化を目的とする。また，一時保育利用者の意識についても，学業や研究，業務に対して，思うように時間が割けないこと等に対する後ろめたさの軽減や，学業や仕事をしながらの出産や育児について肯定的に捉えることができるようになる等の変化が見込まれることから，学業や研究，業務を遂行するにあたり，モチベーションの向上と業績面において良好な成果につなげる。一時保育の現場に学生を参画させることで，大学の構成員全体でワーク・ライフ・バランスに対する意識の向上と価値観の共有を図ることができる。

## ②ワーク・ライフ・バランスの実現

本検証事業では、ワーク・ライフ・バランスの実現を目指し、モチベーションの向上や業績面での良好な成果につなげる。また、利用者が定時に帰宅できる環境づくりに部署内で取り組むこととなり、仕事の効率化や新しい発想、さらには教職員全体のワーク・ライフ・バランスの実現につなげる。

## ③ネットワークの構築

学内外の委員からなる運営委員会を設置し、所属や組織を越えて、意見や情報交換できるネットワークの構築ができる。

このほか一時保育利用者同士の情報交換できるネットワークの構築ができる。

## ④保育の現場に密着した学生教育

学生による学生サポーター「山大保育サポーター」を活用した一時保育を実施することで、実際の保育の現場で実践的な幼児・学童教育を学ぶ機会を学生に提供することができる。また、保育を通して学生自身の男女共同参画意識の醸成や、保育関係の仕事に就くことを志す学生のキャリアデザインに関する意識形成も期待できる。さらに、一時保育利用者をロールモデルとして、学生自身が仕事と育児を両立する具体的なイメージを描くことが可能になる。平成 28 年度検証事業では、キャリアデザインを重視し、教育学部に限定して募集を行ったが、本検証事業では、自身の将来のワーク・ライフ・バランスのイメージや、一時保育利用者である研究者を身近に感じる機会の提供として、全学の学生に対して募集を行う。

## 3. 運営体制

### (1) 運営委員会について

本検証事業を実施するにあたり、ダイバーシティ推進室長を委員長とし、委員長が指名する者を委員として運営委員会を設置した。運営委員会は、本検証事業の間で 2 回、検証事業終了後に 1 回開催し、企画の検討や調整、進捗状況の把握等、事業終了後に継続の方向性について検討を行う。

【構成員】

鍋山 祥子	ダイバーシティ推進室 室長
白石 敏行	教育学部幼児教育講座 教授
池田 浩弥子	教育学部 事務長
都築 徳浩	企画戦略部地域連携課 課長
久保 琢生	医学部総務課育成支援係 係長
松田 昌子	医学部附属病院 医療人育成センター 特命専門員
関矢 雅子	医学部附属病院 医療人育成センター 事務補佐員
橋本 博己	総務部人事課 副課長・ダイバーシティ推進室 副室長
田立 紀子	ダイバーシティ推進室 コーディネーター
桜井 恵	ダイバーシティ推進室 カウンセラー
辻 絵里子	ダイバーシティ推進室 一般職員
天野 原	山口市教育委員会社会教育課 主幹【外部委員】
佐藤 光恵	地域子育て支援コーディネーター・山口市社会福祉協議会 理事 【外部委員】

■第1回

- 日 時 : 平成29年10月31日(火) 10:00~11:00
- 場 所 : メディアTV会議室  
メディア基盤センター吉田センター3階(吉田キャンパス)  
基礎研究棟メディア基盤センター小串センター事務室(小串キャンパス)
- 出席者 : 鍋山室長(ダイバーシティ推進室), 池田事務長(教育学部), 都築課長(企画戦略部), 谷口専門職員(企画戦略部), 松田特命専門員(医療人育成センター), 久保係長(医学部), 関矢(医療人育成センター), 天野主幹(山口市教育委員会社会教育課), 佐藤代表(子育て支援グループママキューピット), 橋本副課長(人事課・ダイバーシティ推進室), 辻(ダイバーシティ推進室)
- 議 題 : 事業, スケジュールの確認  
事業内容について  
保育時間, 利用料金, 申し込み方法, 周知方法, 山大保育サポーター

■第2回

- 日 時 : 平成30年2月16日(金) 13:15~14:15
- 場 所 : 各地区第1TV会議室(吉田キャンパス・小串キャンパス)
- 出席者 : 鍋山室長(ダイバーシティ推進室), 白石教授(教育学部), 池田事務長(教育学部), 都築課長(企画戦略部), 松田特命専門員(医療人育成センター), 久保係長(医学部), 関矢(医療人育成センター), 天野主幹(山口

市教育委員会社会教育課), 橋本副課長 (人事課・ダイバーシティ推進室), 辻 (ダイバーシティ推進室), 有家 (ダイバーシティ推進室)

議 題 : 平成 30 年 1 月末までの実績報告  
養成講座 (初級編・中級編), セミナーについて  
アンケートについて

#### ■第 3 回

日 時 : 平成 30 年 4 月実施予定  
会 場 : 各地区第 1TV 会議室 (吉田キャンパス・小串キャンパス)  
議 題 : 事業報告・今後の継続実施についての検討

## 4. 実施方法等

### (1) 保育場所

本検証事業では, 吉田キャンパス (山口市) の既存の学内託児スペースである大学会館音楽鑑賞室と, 新たに同大学会館談話室, 事務局 1 号館リフレッシュルーム, また, 小串キャンパス (宇部市) では医心館多目的室を実施場所として設置し, 利用の可能性がある場合に事前登録した後, 原則 1 週間前までの申し込み後, 保育者をマッチングして一時保育を開設する方式を採用した。

また, 学生を学生サポーター「山大保育サポーター」として登録し, 「保育サービス講習会 (初級編)」を受講した後, 専門保育者の補助者とする制度の検証も行った。

### (2) 女性が子育てをしながら学びやすい環境整備

本検証事業では, 学内一時保育を整備し, 利用者を学内教職員・学生に限らず, 大学を利用する者に広げ, 大学内で開催されるセミナーや講座を受講する際にも一時保育を利用することができ, 子育てをしながら学びやすい環境整備の検証を行った。

### (3) 地域の潜在保育士や子育て世代, シニア世代の活用のための学びから社会参画へつなげるキャリア形成

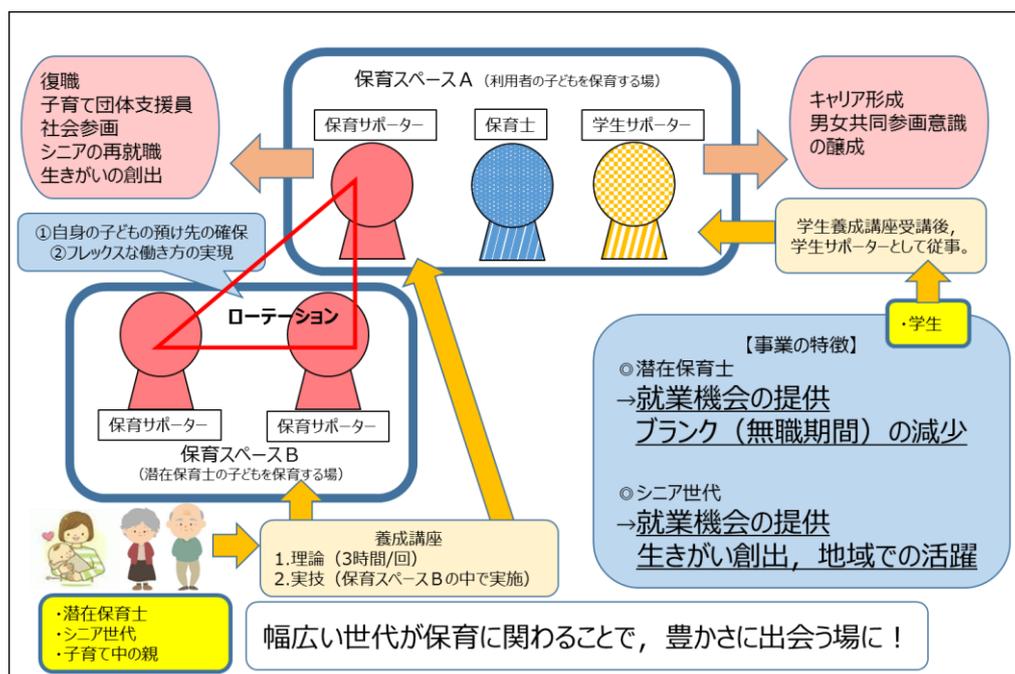
山口県の現状として, 保育士資格を持ちながら保育士として働いていない潜在保育士が約 1 万人おり, 山口県の保育士登録者数, 約 1 万 5,000 人に対し 68.7%にあたり, これは全国で 8 番目に高い割合となっている。また, 高齢化率も全国 4 位と高く, 特に山口市においては「山口アクティブエイジングシティ構想」を策定しており, その構想実現のためには高齢者の能力を活用できる場が必要である。

本検証事業では, 上記の潜在保育士とシニア世代, また子育て中のために働きたくても働くことのできない母親へ, 本学での一時保育の実践に必要な基礎知識の習得として「保育サービス講習会 (初級編)」, さらにスキルを高め, 地域経済活動や地域社会づくりの場での活

躍を支援するための「保育サービス講習会（中級編）」を開講し、受講修了者を地域の子育て支援団体やファミリー・サポート・センターへ橋渡しを行ったことで、受講者の社会参画や復職への支援、また保育者不足の解消にもつながり、地域にも貢献することができた。

このほかにも、学内一時保育で子連れ保育者同士の支え合いのローテーションという仕組みを構築し、検証を行った。この仕組みについては図2に示す。

図2. 地域の潜在保育士や子育て世代、シニア世代の活用のための学びから社会参画へつなげるキャリア形成の仕組み

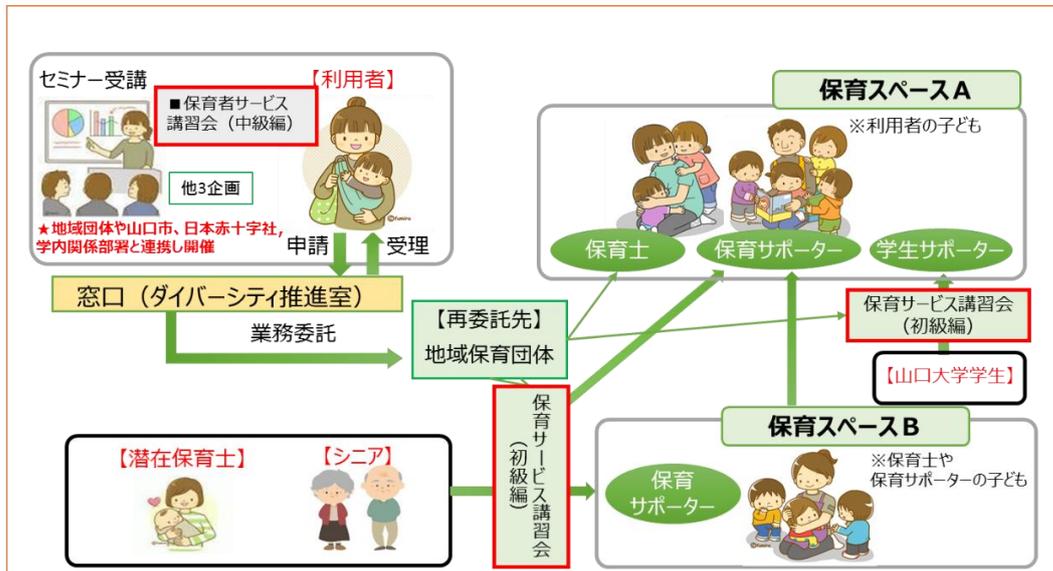


#### (4) 山大保育サポーター

学部を問わず、本学学生でサポーター従事希望者を「山大保育サポーター」として登録し、「保育サービス講習会（初級編）」を受講した後、専門保育者の補助者とする制度の検証を行った。

次ページに図3として、一時保育の検証方法について全体をまとめたものを示す。

図3. 平成29年度一時保育の検証方法



具体的な保育対象年齢，利用時間等については，以下のとおりに設定し運用を行った。

【対象年齢】

0歳児（4ヶ月）～小学校6年生

【利用時間】

通常時・休日	8時00分～18時00分
イベント時	イベント開催時間により考慮（最大8時00分～20時00分）

また，本検証事業の仮説モデルの効果の検証等を行うため，各対象者に対して，以下の調査を実施した。

【実施した調査】

- ・一時保育利用者への調査
- ・保育サービス講習会（初級編・中級編），その他のセミナー等受講者への調査
- ・一時保育を再委託した外部の専門保育者への聞き取り調査
- ・保育業務を実施した山大保育サポーターへのアンケート調査
- ・先行して取組を行う大学，他機関への調査

## 5. 本検証事業の運営実績について

本検証事業は、平成29年11月から平成30年2月の4ヶ月間実施し、次の表において、11月、12月、1月、2月の各月ごとの実績を示す。

実施月	平成29年11月1日～30日
実施場所・実施日数	【吉田地区】 大学会館談話室（5日間）
利用人数	利用人数 5人（のべ6回） 内訳 0歳児 0人 3歳未満児 1人・2回利用 3歳以上児 2人・4回利用 小学生 0人
登録者数	のべ9人 0歳児 1人 3歳未満児 5人 3歳以上児 2人 小学生 1人
山大保育サポーター登録者数	0人
山大保育サポーター従事者数	0人



平成29年度一時保育の様子（山口地区）

実施月	平成 29 年 12 月 1 日～31 日		
実施場所・実施日数	<p>【吉田地区】 12 日間            大学会館談話室（8 日間）            大学会館音楽鑑賞室（4 日間）</p> <p>【宇部地区】 7 日間            医心館多目的室（6 日間）            工学部福利厚生棟クリエイティブラウンジ（1 日間）</p>		
利用人数	<p>利用人数 36 人（のべ 74 回）            内訳 ■学内利用者</p> <p>【吉田地区】</p> <p>0 歳児 1 人・1 回利用            3 歳未満児 1 人・1 回利用            3 歳以上児 3 人・14 回利用            小学生 11 人・28 回利用</p> <p>【宇部地区】</p> <p>0 歳児 0 人・0 回利用            3 歳未満児 0 人・0 回利用            3 歳以上児 1 人・1 回利用            小学生 5 人・15 回利用</p> <p>■学外利用者</p> <p>0 歳児 1 人・1 回利用            3 歳未満児 13 人・13 回利用            3 歳以上児 0 人・0 回利用            小学生 0 人・0 回利用</p>		
登録者数	<p>延べ 37 人</p> <p>0 歳児 1 人            3 歳未満児 6 人            3 歳以上児 7 人            小学生 23 人</p>		
山大保育サポーター登録者数	11 人	従事者数	3 人
セミナー・講座等	<p>■ママのためのイクメンセミナー            平成 29 年 12 月 8 日（金） 13:00～14:00</p> <p>■アメリカで学ぶ！多文化共生，グローバルリーダーとは？            平成 29 年 12 月 12 日（火） 16:30～18:20</p> <p>■保育サービス講習会（初級編）            平成 29 年 12 月 14 日（木） 9:30～12:30</p>		

実施月	平成 30 年 1 月 1 日～31 日		
実施場所・実施日数	<b>【吉田地区】 10 日間</b> 大学会館談話室（8 日間） 大学会館音楽鑑賞室（2 日間） <b>【宇部地区】 4 日間</b> 医心館多目的室（4 日間）		
利用人数	利用人数 32 人（のべ 72 回） 内訳 ■学内利用者 <b>【吉田地区】</b> 0 歳児        0 人・0 回利用 3 歳未満児  0 人・0 回利用 3 歳以上児  4 人・10 回利用 小学生        14 人・21 回利用 <b>【宇部地区】</b> 0 歳児        0 人・0 回利用 3 歳未満児  1 人・1 回利用 3 歳以上児  0 人・0 回利用 小学生        3 人・5 回利用 ■学外利用者 0 歳児        0 人・0 回利用 3 歳未満児  7 人・32 回利用 3 歳以上児  3 人・3 回利用 小学生        0 人・0 回利用		
登録者数	延べ 52 人 0 歳児        4 人 3 歳未満児  10 人 3 歳以上児  12 人 小学生        26 人		
山大保育サポーター登録者数	11 人	従事者数	8 人
セミナー・講座等	■保育サービス講習会（中級編） 平成 30 年 1 月 11・15・18・22・25・29 日 ■多様性&就職&知的財産 国連セミナー 平成 30 年 1 月 24 日（水） 10:30～11:30		

実施月	平成 30 年 2 月 1 日～28 日		
実施場所・実施日数	<b>【吉田地区】 6 日間</b> 大学会館談話室 (6 日間) <b>【宇部地区】 3 日間</b> 医心館多目的室 (3 日間)		
利用人数	利用人数 9 人 (のべ 16 回) 内訳 ■ 学内利用者 <b>【吉田地区】</b> 0 歳児       0 人・0 回利用 3 歳未満児 1 人・1 回利用 3 歳以上児 2 人・5 回利用 小学生       0 人・0 回利用 <b>【宇部地区】</b> 0 歳児       2 人・2 回利用 3 歳未満児 1 人・3 回利用 3 歳以上児 0 人・0 回利用 小学生       3 人・5 回利用		
登録者数	延べ 53 人 0 歳児       4 人 3 歳未満児 11 人 3 歳以上児 12 人 小学生 26 人		
山大保育サポーター登録者数	11 人	従事者数	4 人



平成 29 年度一時保育の様子 (宇部地区)

## 6. 本検証事業により把握できたことについて

### (1) 地域とのつながりについて

#### ①再就職しやすい環境整備

##### ■保育サービス講習会（初級編）

本事業では、第1段階として、事業内での保育サポーターとしての従事、再委託先への就業を目的として「保育サービス講習会（初級編）」を実施し、31名の参加があった。そのうち潜在保育士2名、シニア世代4名、学生11名のほか、託児利用者は5名であった。31名の受講者のうち、本講習会の目的である本学一時保育業務に従事した者は24名、一般参加者20名のうち、再委託先へ就業のための登録をした者は16名であり、75～80%の受講者が目的を達成している。本講習会の受講後アンケートより、保育や子育て支援事業に従事するために必要な知識や技術を習得できる100%（とても役に立つ84%、まあまあ役に立つ12%）、自身のキャリアデザインに役に立つ100%（とても役に立つ44%、まあまあ役に立つ56%）と高い評価を得ることができた。

受講後の従事についても、①自身の子供を連れて従事が可能な点、②短時間勤務が可能な点が、子育て世代、シニア世代ともに希望する働き方の実現につながり、継続実施の声も多かった。



保育サービス講習会（初級編）の様子

##### ■保育サービス講習会（中級編）

前述の「保育サービス講習会（初級編）」からさらにスキルアップし、本学一時保育や再委託先だけでなく、地域の子育て支援団体やファミリー・サポート・センターへの従事を目的として「保育サービス講習会（中級編）」を実施した。具体的には、「地域の中での子育て」を推進するうえで重要な役割を担う保育者の増加であり、地域の保育者不足の解消にもつながる。

本講習会は、平成23年、厚生労働省より各都道府県・指定都市・中核都市のファミリー・サポート・センター事業担当課長に対して、ファミリー・サポート・センター事業における講習会の実施について、指定した9つの項目、合計24時間の講習時間を概ね満たした講習

会を実施し、これを修了した会員が活動を行うことが望ましいとする通知が送られ、一般社団法人女性労働協会が上記の9つの項目に沿ったテキストの発行とカリキュラムの承認を行い、修了者には協会認定の修了証を授与することができるというものである。また、修了生のグループ・団体が活動する場合に加入できる補償保険がある。

この「保育サービス講習会（中級編）」では、25名の参加があり、参加者全員が協会認定を受けることができた。受講後、新たに保育業務に従事した者10名、さらに受講をきっかけに保育士資格取得を希望した者5名、地域の子育て支援団体へ登録をした者が10名など、地域での子育てを担う保育者として活躍の場を提供することができた。また、参加者の保育に関する資格等の内訳としては、保育士有資格者は9名、うち潜在保育士2名、保育士無資格者ではあるが保育関係従事者は2名であり、既に保育業務に従事している者にとっても、学び直しの機会提供につながった。本講習会の受講後アンケートより、保育・子育て支援事業に従事するために必要な知識や技術を習得・維持することにとっても役立つ100%、ブランクの不安解消に役立つ100%など、高い評価を得ることができ、既に子育て業務従事者からも「1年に1回はスタッフ全員でこのようなスキルアップの研修が必要である」といった意見もあり、本講習会の内容は、学び直しとしても効果が高いことが分かった。また、本講習会が子育てをしながら学びやすい環境であったかという問いに対して、大変そう思う、ややそう思うとの回答が90%に対して、10%があまりそう思わないとの回答であった。これは、24時間のカリキュラム実施のために、午前中2時間、午後2時間の6日間、つまりほぼ1日の時間を要したため、託児付き講座であっても、小学生や園児を持つ保護者にとっては、送迎の時間と重なり、受講が難しいという現状を把握できた。しかし、昼食休憩のある講習会により、受講者同士が大学内学食のお弁当を囲んで昼食をともにし、コミュニケーションの取れる時間を過ごしたことによって、新たなネットワークや信頼関係の構築につながったことは有益であった。このつながりにより、その後の一時保育業務に従事する際には、お互いの事情を把握・理解し、協力しながらシフト調整を行うことができた。



保育サービス講習会（中級編）の様子

## ②保育者の増加

「保育サービス講習会（中級編）」により、地域の子育て支援団体へ10名が登録し、地域の保育者増加につながった。今回の仕組みは子育て世代・シニア世代からも高い評価を得ており、今後も継続実施していくことで、さらなる周知や、地域の保育者増加につなげていきたい。

## ③地方公共団体や地域との連携

「保育サービス講習会（中級編）」の実施に伴い、山口市健康増進課、山口市子ども家庭課、日本赤十字社山口県支部、山口市ファミリー・サポート・センターと連携し、共催や後援、講師派遣の協力を得た。受講者からは、乳児用心肺蘇生訓練人形を用いるなど、他の講習会で体験したことがない実技授業も多いと大変好評であった。この講習会をきっかけに、山口大学が学びの場として会場を提供したり、受講対象者として地域の方々だけでなく、学生・教職員にも広報し、新たな連携について検討している。

## ④女性の学び支援

本事業期間内に託児付きセミナーや講座を5講座開設し、18名が託児を利用し受講することができた。感想としても、大変良かった75%、良かった25%と高い評価を得ることができ、「託児の配慮は子供を持つ人にとっては良い環境である」、「現場に戻る、自信を取り戻す、スキルアップにつながる学びの場であり、子供を預けて安心して学ぶことができる環境であった」という意見もあった。セミナー受講時の託児利用者アンケートでは、働いていない理由は「子育てのため」が100%であり、子育てが就業や学びの場に参加できない最大の要因であることが把握でき、女性の学び支援のためには託児を設置することは必要であることが分かった。

### (2) 学内での状況について

#### ①全学的な意識改革と価値観の共有

一時保育の実施をホームページ・チラシ・一斉メールで全学に周知し、大学の保育支援に対する積極的な姿勢を示すことで、大学構成員の保育に対する理解がさらに促進され、学業や研究、業務の両立をしやすい機運の醸成や意識の変化があった。また、一時保育利用者の意識についても、学業や研究、業務を遂行するにあたり、敷地内に預けることで、緊急時に対する安心や、休憩時間などに子供と一緒に過ごせるなど、モチベーションの向上につながった。

一時保育利用をしない者であっても、同じ部内や課内に一時保育利用者が在籍している場合、全学周知をすることによって協力体制の整備や意識啓発につながった。平成28年度から引き続いての事業ということで、全学的な周知や意識改革も浸透しており、寄付物品（使わなくなった子供用品等）の申し出も数件あり、保育スペースの充実にもつながり協力

体制が整備された。

### ②ワーク・ライフ・バランスの実現

本事業では、同じ敷地内に子供を預けることで生活面や精神面においても余裕が生まれ、保育所への送迎時間の短縮もできることから、学業や研究、業務に専念する時間の確保が可能となり、モチベーションの向上や、業績面においても良好な成果につながった。利用時間を18時までとすることで、利用者が17～18時に帰宅できる環境づくりに部署内で取り組むこととなり、仕事の効率化や新しい発想につながり、結果的に利用者だけでなく、教職員全体のワーク・ライフ・バランスの実現につながった。勤務時間と施設使用可能時間に考慮した保育時間を設定したため、送迎や休園などを理由とする休暇取得が減り、リフレッシュのための休暇取得日数が増加した。

### ③ネットワークの構築

運営委員会の設置により、一時保育に必要な学内外の連携体制を構築することができ、それぞれの役割を明確化できるとともに、委員が所属を越えて、意見や情報交換できるネットワークの構築ができた。一時保育利用時の子供の送迎の際、保護者が顔を合わせることであり、同様のライフイベントを抱える利用者が情報交換できるネットワークの構築ができた。

本事業をより効果的に推進するために先行大学等への訪問調査等を行い、本事業終了後においても他機関への相談や情報交換を行えるネットワークの構築ができた。

### ④保育の現場に密着した学生教育

学生サポーターを活用した一時保育を実施した結果、実際の保育の現場で実践的な幼児・学童教育を学ぶ機会を学生に提供できた。また、保育を通して学生自身の男女共同参画意識の醸成や、保育関係の仕事に就くことを志す学生のキャリアデザインに関する意識形成にもつながり、さらに一時保育者をロールモデルとして、学生自身が仕事と育児を両立する具体的なイメージを描くことができた。また、本事業では全学部より学生サポーターを募集した結果、保育関係の仕事希望する学生以外にも、子供が好きな学生や、将来、女性研究者を志し、大学院進学を希望する女子学生の参加もあった。女性研究者を希望する女子学生は、将来、研究と結婚や子育ての両立をしたいとの希望があり、そのために子供と接する機会を持ちたいということでの参加だった。今回の経験により、さらに両立の意識は高くなり、一時保育利用者が女性研究者の時もあったため、間近にロールモデルを見る機会にもなり、大変喜んでいた。この女子学生は、大学院進学後も学生サポーターに従事したいとのことだった。



学生サポーター「山大保育サポーター」  
の様子



### (3) 利用状況について

#### ①地域の保育環境の現状

山口市内の待機児童は 200 人を超えており、そのため、保育園に入所できず、幼稚園に入園する場合がある。また、平成 28 年度と比べて、保育施設も増え、待機児童も少しずつ減少傾向ではあるが、どちらかがパート勤務や非常勤勤務の場合は入所順位が下がり、入所が困難な状況は続いている。

今回、学外からのセミナー受講者の多くが専業主婦であり、就業していない場合の保育園への入所資格はない。地域の子育て中の女性は、学び直しや新たな分野を学びたいという意欲があっても、子供の預け先がないため、受講を諦めている場合が多いことが分かった。

#### ②本学での利用状況

利用している子供の年齢層は、小学生 38%、3 歳以上児 22%、3 歳未満児 33%、0 歳児 7%で、冬季休暇中の時期の小学生の利用が多かった。小学生の利用理由としては、地域の学童保育についても保育園と同様に空きがなく、学童保育の待機児童も多い。通常、学校がある場合には、やむを得ず、学校から帰宅後の時間を 1 人で過ごす児童が多いことが分かった。ただ、長期休暇中は 1 日中 1 人で過ごすことに不安を感じ、学内一時保育を利用した場合が多かった。

#### ③利用者の感想

- ・普段は家で子供だけで過ごしているが、今回、職場内に預けることで、安心して業務に専念することができた。
- ・学内一時保育ではなかなか体験できないことが体験でき、子供が楽しく過ごしていることが嬉しい。
- ・学生とクイズをしたり、勉強をみてもらったりすることで、子供の勉強に対する意欲がわ

いていることを日々感じ、とても良い学びの場だと思った。

- ・場所があまり保育所らしくない。食事をする場所，遊ぶ場所，昼寝をする場所を分けて欲しい。
- ・シニアの方に保育してもらい，昔の遊び（お手玉やけんけんぱ等）を教えてもらえ，とても楽しそうに遊んでいた。特に，朝できなかつた「けんけん（片足飛び）」が，お迎えの時にはできるようになっており，色々な人に保育してもらえて，たくさんの体験できたことが良かった。

#### **（４）先行して取組を行う大学等，他機関への調査について**

先行する他大学等の事例研究を行い，本学に不足する施策の有無や課題解決のための情報収集，ネットワークの構築を図った。

##### **①中四国男女共同参画推進連携会議・シンポジウム（広島大学主催）**

- ・女性上位職の増加のための取組や女性研究者支援について，他大学との情報交換や意見交換を行うことができた。
- ・本学では不妊治療休暇を規則に取り入れているが，規則化されていない大学もあり，情報提供を行うことができた。
- ・学生を主体とした地域貢献に取り組んでいる大学もあり，それらの大学が実践している先進的な事例の導入可能性や方法について検討できた。

##### **②四国地域連携による女性の学び支援のための研究協議会プロジェクト（徳島大学主催）**

- ・女性のリカレント教育について，大学だけでなく，地方公共団体や企業の取組についても情報を得ることができ，大変有意義であった。
- ・本事業での本学取組をパネリストとして講演し，情報提供を行った。
- ・徳島大学内の施設見学を行い，女性教職員のための休憩室については，整備だけでなく，セキュリティへの配慮の点で参考になった。
- ・徳島大学の学内保育所は，仮設にもかかわらず，衛生面が配慮された設備になっており，参考になった。

##### **③四国発信！男女の働き方改革 Part 1！女性の学び講座Ⅲ-仕事と生活の両立-**

**（徳島大学主催）**

- ・研究者同士の夫婦それぞれの立場での意見を聞くことができ，支援制度や研究者へのサポート体制について参考になった。

## 7. 検証結果について

今回の検証事業により、子育てをしながら学びやすい環境整備のためには、託児システムはもちろんのこと、家族に負担のかからない時間の開催について配慮が必要なことが分かった。また、復職についても、子供を預けて仕事をすることに罪悪感を感じる女性は多いことも把握でき、まずは短時間での社会参画の経験をきっかけとして、その罪悪感を払拭することが可能であったり、母親ではなく一人の人間としての生きがいを改めて実感できる機会につながるということが分かった。そのため、復職＝フルタイムは女性にとってハードルが高く、復職のための助走の場として、大学ならではの学びの場は非常に意義深いものであることが分かった。このほか、配偶者の協力も必要であり、男性の意識改革の必要性も感じた。

シニア世代の参画は、保育者や利用者からも非常に喜ばれ、これまでの経験や遊び、生活面での伝承に加えて、子育て世代の支援にも非常に有用で、地域の子育て支援の即戦力となり、同時に、即戦力となることがシニア世代の生きがいや目標になることが分かった。

このほか、子育て世代の就業時の不安要素としては、子供の急な体調不良や病気であるが、その際には周りの理解や協力が必要である。本検証事業の一時保育業務でも上記ケースは複数回あり、その際にシニア世代が代替従事することが多く、このことからシニア世代の社会参画は子育て世代の支援となることが分かった。また、本検証事業をきっかけに保育者として従事した子育て世代からは、シニア世代の存在により安心して復職に臨めたとの声も多かった。

専門保育者の補助を行った学生サポーターへの調査からは、熱意ある専門保育者による実践的な指導や子供たちとのふれあいの中から、今後の自身のキャリアを見つめ直し、また、子育てについて考えるきっかけとなることや気づきが得られたことが確認できた。

各種アンケートや調査を実施したことにより、女性の学びやキャリア支援のためには、地域や時代のニーズに合った体制が必要であることが分かった。

## 8. 終わりに

本検証事業による検証結果とデータの蓄積は、今後の本学の保育事業の礎となる貴重な財産であり、今後、地域経済活動や地域社会づくりの場で活躍できる女性への支援として、大学ならではの学びの場を提供するという意義深いものにつなげていきたい。

最後に、本事業に採択いただいた文部科学省を始め、実際に保育業務に従事していただいた子育て支援グループ ママキューピット様、アンケートに御協力いただいた地域の方々、学生や職員の皆さまに感謝いたします。

# 参考資料

## 一時保育利用登録の募集!

【文部科学省委託事業「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」】

**利用には事前登録が必要で  
利用する可能性がある方は登録をお願いします**

※詳細については、登録完了後、利用のしおりをお送りします

<b>利用対象者</b>	本学教職員及び学生 大学を利用する学外の方	<b>保育実施場所</b>	吉田キャンパス 小串キャンパス
<b>保育対象年齢</b>	生後4か月から 小学校6年生まで	<b>実施期間</b>	平成29年11月6日～平成30年2月28日
<b>利用料金</b>			

0歳児 (4か月～)	1日利用	3,000円/層	3歳以上児	1日利用	2,000円/層
	4時間以内	2,000円/層		4時間以内	1,300円/層
3歳未満児	1日利用	2,500円/層	小学生	1日利用	1,500円/層
	4時間以内	1,500円/層		4時間以内	1,000円/層
	夜間	800円/30分		夜間	300円/30分

※1日利用：8:00～18:00の間4時間連続利用  
※4時間以内：8:00～18:00の間4時間以内  
※夜間：18:00～20:00の間（イベント参加時特注）

**利用時間**

通常時・休日：8時00分～18時00分  
イベント時：イベント開催時間により考慮（最大8時00分～20時00分）

**利用登録** 利用登録は、本学ダイバーシティ推進室ホームページ  
<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/Institute/ydpo.html>

お問い合わせ：（山口地区）山口大学ダイバーシティ推進室 E-mail: ydpo@yamaguchi-u.ac.jp  
TEL: 083-933-5997 FAX: 083-933-5024  
（宇部地区）山口大学医学部附属病院 医療人育成センター 医療人キャリア支援室  
E-mail: mpros@yamaguchi-u.ac.jp  
TEL: 0836-85-3137 FAX: 0836-85-2356

登録者数	56名
【内訳】	
小学生	27名
3歳以上児	12名
3歳未満児	13名
0歳児	4名

一時保育利用登録募集

## 山大保育サポーター（吉田地区）登録募集!

【文部科学省委託事業「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」】

**山大保育サポーターとは**

学生のみならず保育サポーターとなって、教職員・学生・大学利用者の家庭・学業の両立を支援する制度で、学内行事や保育所等が利用できない場合の一時保育を行います

【利 点】

- ・子どもとの関わり方を学ぶことができます
- ・保育体験をすることで、将来自分の子育てに役立ちます
- ・研究者・教職員をモデルとし、将来、仕事と育児の両立をする時のイメージをすることが出来ます
- ・利用者や保育士と関わり、人間関係を構築することができます

**活動内容**

【実施期間】 平成29年11月6日～平成30年2月28日  
【時 間】 通常時（平日・休日）：7時30分～18時30分  
イベント時：イベント開催時間により考慮する（最大7時30分～20時30分）  
上記の時間のうち、対応できる時間のみをお願いします  
時間や曜日については相談に応じます  
【場 所】 山口大学吉田キャンパス内  
※詳細については安全確保の観点からサポーター登録後お知らせします  
【内 容】 お子様（幼児～小学生）をお預かり中の保育をし、安全に見守ります  
【料 金】 850円  
【養成講座】 事前に養成講座（3時間程度・無料）を受講していただきます

**対象者**

- ・子どもが好きな方
- ・学校教員を目指す方で、子どもと接する経験を積みたい方（学部生、大学院生を問いません）

**登録方法** 登録方法については裏面をご覧ください

お問い合わせ：山口大学ダイバーシティ推進室 E-mail: ydpo@yamaguchi-u.ac.jp  
TEL: 083-933-5997 FAX: 083-933-5024

**登録方法**

下記必要事項をご記入の上、ダイバーシティ推進室に提出をお願いします  
事前に養成講座を受講していただき、修了後に山大保育サポーターとして登録されます  
山大保育サポーターとして登録すると、一時保育の予約が入った時に、ダイバーシティ推進室から登録者にメール連絡し、調整します

※個人情報山口大学一時保育の山大保育サポーター登録にのみ使用いたします

(フリガナ)		性別
氏名		男・女
連絡先（携帯）		
メールアドレス		
学部学科		学籍番号
特記事項 就労希望がのまらぬよう記入してください		

【提出先】ダイバーシティ推進室  
E-mail: ydpo@yamaguchi-u.ac.jp  
TEL: 083-933-5997  
FAX: 083-933-5024

学生サポーター（山大保育サポーター）登録募集

登録者数	11名
------	-----

平成29年度文部科学省委託事業「男女共同参画社会のための学び・キャリア形成支援事業」

## 山大保育サポーター養成講座 —保育サービス講習会（初級編）—

申込〆切  
12/11 (月)  
託児無料  
(要事前申込)

本講座では、子どもが好きで、将来のために子どもと接する経験を積みたい方に向けて、保育や子育て支援事業に従事するために必要な知識や技術を習得することを目的としています。  
受講修了後は、学内一時保育での保育サポーターとして従事することができます。  
今年度7月に実施をした養成講座は小学生の学童保育を対象としたもので、冬季や春季の学童保育に従事することは可能ですが、乳幼児の保育サポーターには従事することができません。  
乳幼児の一時保育の保育サポーターに従事するためには本講座を受講してください。

2017年  
**12月14日 木 9:30-12:30**

会場：山口大学吉田キャンパス入学生会館2階 セミナー室

内容

- 地域子育て支援 マインド
- 保育者の専門性と保育マインド
- 子どもの「育ち」への理解
- 一時預かり保育における健康管理と事故対策
- 小児看護基礎知識・小児保健
- 子どもの年齢別配慮事項
- 保育者の実践と保育技術 (子どもの遊び)
- 子育てを支える姿勢

お申込み方法  
山口大学ダイバーシティ推進室まで、メールまたはFAXにてお申込みください。  
メールの場合は「申し込みプログラム申込」とし、宛先「募集」欄に「募集」(TEL/FAX)と記載し、FAXの場合は「募集」(TEL)と記載し、FAX (083-933-5024)にてお申込みください。

備考  
ご都合の悪い方は別日に受講することも可能ですので、お問い合わせください。

お申込み  
お問い合わせ  
TEL 083-933-5997 FAX 083-933-5024  
MAIL ydpo@yamaguchi-u.ac.jp  
URL http://www.yamaguchi-u.ac.jp/institute/ydpo.html

保育サービス講習会（初級編）  
平成29年12月14日実施

参加者数	31名
【内訳】	
地域	20名
学生	11名

平成29年度文部科学省委託事業「男女共同参画社会のための学び・キャリア形成支援事業」

## 保育サービス講習会（中級編）

申込〆切  
1/9 (火)  
託児無料  
(要事前申込)

本講座では、「地域の中での子育て」を推進するため、子育て支援に必要な基礎知識や技術を習得していただき、保育サービスを提供できる人材育成を目的としています。  
受講修了後は、一般財団法人女性労働協会認定の修了証を授与いたします。

※ご都合の悪い方は別日に受講することも可能ですので、お問い合わせください。

プログラム

- 第1回：平成30年1月10日（水）9:45～12:00、13:00～15:00 「保育の心」「心の発達と保育者の役割」
- 第2回：平成30年1月15日（月）10:00～12:00、13:00～15:00 「育ちの異なる子どもの個性について」「身体の発達と育ち」
- 第3回：平成30年1月18日（木）10:00～12:00、13:00～15:00 「小児看護の基礎知識」
- 第4回：平成30年2月22日（月）10:00～12:00、13:00～15:00 「子育て支援サービスの提供について」「子どもの生活へのケアと援助」
- 第5回：平成30年2月25日（木）10:00～12:00、13:00～15:00 「子どもの遊び」
- 第6回：平成30年1月29日（月）10:00～12:00、13:00～14:15 「子育て支援サービスを届けるために」

対象  
自宅子どもを預かり保育する、子どもの自宅に向かい保育するなどの保育サービス活動を行いたい、子育て支援団体に所属し、または、子育て支援を預かる準備としても役立ちます。

場所  
山口大学吉田キャンパス 事務棟2号館4階 第2会議室

費用  
受講料無料 ※ただし、初回受講時にテキスト代として実費（2,000円）を徴収いたします。

お申込み方法  
参加希望の方は1月9日（火）までに子育て支援グループ「ママキュービット」まで、メールまたはFAXにてお申込みください。  
詳細は裏面をご覧ください。

お申込み  
お問い合わせ  
子育て支援グループ「ママキュービット」  
TEL 083-922-4325 FAX 083-922-4325 MAIL che-che-cha@hotmail.co.jp

【主催】山口大学ダイバーシティ推進室  
【共催】子育て支援グループ「ママキュービット」山口市ファミリーサポート・センター  
【後援】山口市一般財団法人女性労働協会

保育サービス講習会（中級編）  
平成30年1月11・15・18・22・25・29日実施

参加者数	25名
【内訳】	
地域	25名
学生	0名

平成29年度 第5回ダイバーシティ推進セミナー

## ママのためのイクメンプログラム パパの気持ち ママの気持ち ～ふたりの子育て再発見～

平成29年12月8日（金）  
13:00～14:00  
会場 山口大学工学部福利厚生棟3F  
クリエイティブラウンジ

講師 佐藤光恵先生  
子育て支援グループ「ママキュービット」代表  
(保育士)

申込〆切  
12/1 (金)  
託児無料

現在、目を奪われて育児・家事を独断的に行う「イクメン」の推進が行われています。一方、母親にとって、育児に携わる父親の気持ちがよくわからない場合、父親の行動がどこか不安で感じたり、おもしろいかわからないかもしれません。本セミナーで父親の気持ちを知り、夫婦共同での子育てのあり方を見つけたい方、育児のワークライフバランスの定着を目指しましょう。

対象：乳幼児の育児で中または妊娠中の女性  
※託児が必要な方は申込み時にお伝えください(無料)。

定員：10名程度  
※先着順の受付です

お申込み方法：お電話でお申し込みください。※12月1日の受付

お申込み・お問い合わせ  
山口大学ダイバーシティ推進室  
TEL 083-933-5997 FAX 083-933-5024  
MAIL ydpo@yamaguchi-u.ac.jp  
URL http://www.yamaguchi-u.ac.jp/institute/ydpo.html

ママのためのイクメンプログラム  
平成29年12月8日実施

参加者数	12名
【内訳】	
地域	8名
教職員	4名



第6回ダイバーシティ推進セミナー  
山口大学国際協力の里 特別講演会

**English + Study Abroad:  
Become a leader!**

アメリカで学ぶ！多文化共生、グローバルリーダーとは？

山口大学はダイバーシティ・キャンパスの実現とグローバルリーダーの育成を目指しており、日本人学生の海外留学、外国人留学生の受入れを積極的に推進するとともに、構成員の多様性を積極的に高めるための取組を行っています。こうした活動をさらに推進するため、在福岡米領事館より講師を招き、「特別講演会」を実施いたします。



講師  
在福岡米領事館 首席領事  
ジョイ・ミチコ・サクライ氏

申込べ切  
12/5 (火)  
託児無料  
(要事前申込)

2017.12.12. Tue 16:30~18:20

【プログラム】

● 開会挨拶

16:30~16:35

● 講演 アクティビティ

16:35~18:15

「English + Study Abroad

Become a leader!」

在福岡米領事館

首席領事、ジョイ・ミチコ・サクライ氏

(※途中10分間の休憩)

● 閉会挨拶

18:15~18:20

〈場 所〉山口大学吉田キャンパス  
総合図書館1階アカデミック・フォレスト  
〈参加対象〉学生・教職員及び関係者の方  
〈参加費〉無料  
〈定 員〉50名  
〈主 催〉山口大学  
〈後 援 等〉山口日本協会  
〈申 込 先〉裏面をご確認ください

講師から参加者の方へお願い

当日のアクティビティで印刷いたしますので、参加者の方は下記QRコードへアクセスし、事前に簡単な性格診断テストをお受けください。また、当日は下記QRコードからアクセスいただけます。右記のQRコードからもアクセスいただけます。



<https://www.16personalities.com/ja>

お問い合わせ：山口大学  
企業戦略部国際企業課国際企業係  
岡 田 智由  
〒753-8511  
山口県山口市吉田1677-1  
TEL: 083-933-5975  
FAX: 083-933-5929  
Eメール: numata@yamaguchi-u.ac.jp

アメリカで学ぶ！多文化共生、グローバルリーダーとは？  
平成29年12月12日実施

参加者数	44名
【内訳】	
地域	11名
教職員	16名
学生	17名

学生、教職員、地域の皆様へ  
元国連職員 森田宏子氏 来学!!  
多様性 & 就職 & 知的財産 国連セミナー  
共催：山口大学ダイバーシティ推進室/国際総合科学部/  
大学研究推進機構 知的財産センター

講演者 元国連職員  
森田 宏子 氏  
「子育て」と「キャリア」どう両立する？  
国連で働くってどんなこと？ どうすればなれる？  
国連に知財の機会がある？！  
…なかなか聞く機会がない国連職員の生の声。  
平成30年1月24日(水)  
日時 10:30~11:30(60分) / 12:50~14:20(90分)  
※開場は、上記の20分前です。  
場所 事務局2号館 4階 第2会議室  
※裏面の地図を参考にください。  
託児無料  
要事前申込

●タイトル●  
10:30~11:30(60分)  
第一部 働きながら子育てするという事  
～「仕事とわたし、どっちが大事なの？」～  
12:50~14:20(90分)  
第二部 国連・国際機関で働くということ  
～「国際機関に就職するには？」～

お申込  
問合せ ※参加希望の方は1月20日(土)までに知的財産センターへメールにて、お申し込みください。(記入内容：第一部、第二部のどちらに参加か、氏名、メールアドレス)  
Mail → edu\_ip@yamaguchi-u.ac.jp (※@に替えて送信)  
・参加費無料・託児無料(要事前申込)・どなたでも参加可能です！  
・第一部、第二部どちらか片方の方のみの出席でも大歓迎です。  
・会場の都合上、なるべく早めに申込ください。

©2017 YAMAGUCHI UNIVERSITY All rights reserved. 平成29年度文部科学省委託事業 「男女共同参画社会のたのびの学び・キャリア形成支援事業」

多様性&就職&知的財産 国連セミナー  
平成30年1月24日実施

参加者数	39名
【内訳】	
地域	10名
教職員	26名
学生	3名

【様式1】

一時保育利用登録申請書(学童用)

国立大学法人山口大学 殿

平成 年 月 日

所属, 職名, E-mail, 氏名

一時保育の利用を希望するので、次とおり登録いたします。

ふりがな, 児童名, 小学校(園)名, 利用形態, 備前保護等への加入状況, アレルギー

健康保険証, かかりつけの病院, 緊急連絡先

※個人情報は山口大学一時保育の利用者登録にのみ使用いたします。

★上記内容に変更があった場合は、必ずお知らせください★

一時保育利用登録申請書

一時保育同意書

平成 年 月 日

山口大学の一時保育の登録にあたり、下記事項について同意します。

- 1. 今回登録した内容に変更があった場合は、速やかに連絡を行うこと。
2. 予約のキャンセルをされる場合は、必ず利用日の3日前までに連絡すること。
3. 時間に余裕をもってお迎えに行くこと。
4. お子様の体調などにより、お迎えをお願いすることがあります。
5. 与薬は医療行為にあたるため原則として行うことができません。
6. SIDSなど原因の特定ができないものに関しては責任を負いかねます。

保護者氏名



児童氏名

【様式5】

健康状況調査書(学童用)

平成 年 月 日 生

児童名, 健康状況, 病名, 年齢, 既往症, 食事について, アレルギー

健康状況調査書(学童用・乳幼児用)

生活状況について(乳幼児用)

【様式7】

平成 年 月 日

※太線内については乳児のみご記入ください

児童名

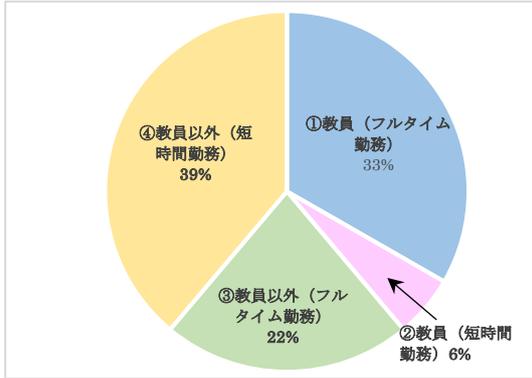
ミルク, 母乳, 授乳方法, 食事について, 睡眠, 排便, 性格

生活状況調査書(乳幼児用)

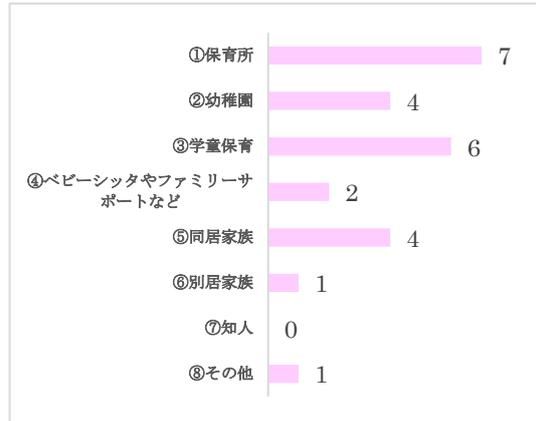
# アンケート調査結果

## 1. 一時保育利用者（学内教職員）

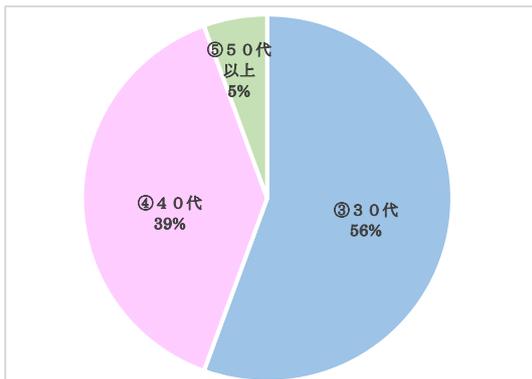
Q 1. 職種



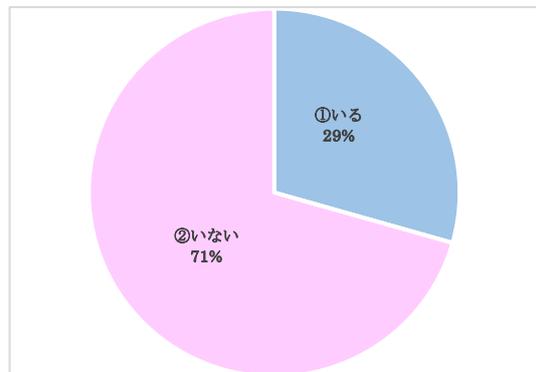
Q 5 - a .子育ての状況について



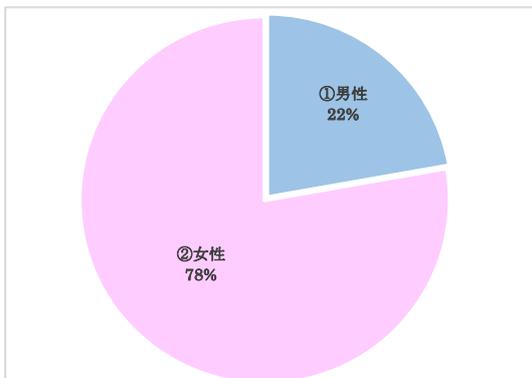
Q 2. 年代



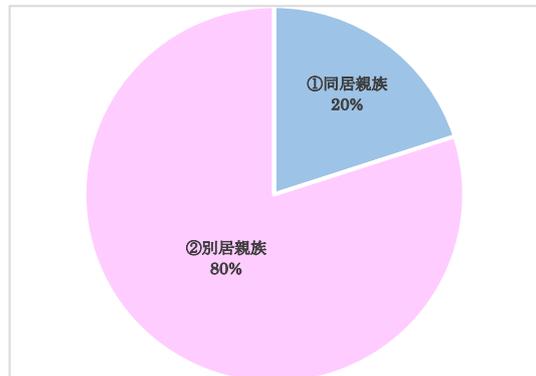
Q 5 - b .通常時の保育が難しい場合、お子さんを見てもらえる人が近くにいますか。



Q 3. 性別



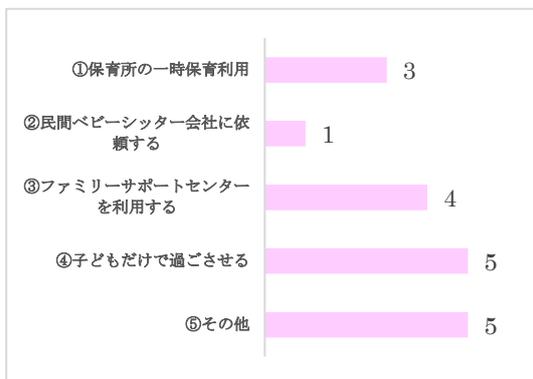
Q 5 - c . bで①いるの方について、お子さんを預ける人との関係性について



Q 4. 小学生以下の子供人数について

.....平均 1.72 人

Q 5 - d. お子さんをみてもらう人がいない場合の  
対応について

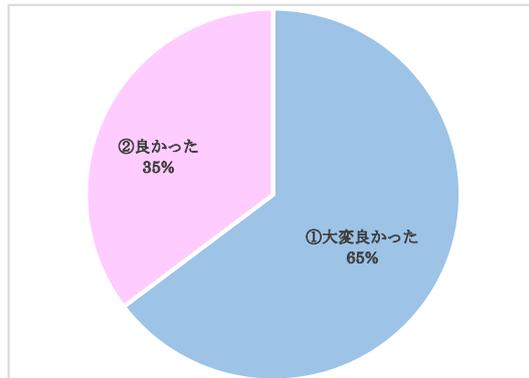


Q 6. 今回の一時保育利用について

a. 利用した理由

- ・妻がハローワークの職業訓練を受講するため、家に誰もいなくなるため。
- ・みてもらえる人がいなかったため、自宅で一人よりも一時保育の方が安心できたため。
- ・休園日のため利用。比較的安価で職場内なので安心。
- ・通常、放課後は別居の祖母に見てもらっているが、毎日一日中となると負担が大きいため。長期休暇中は利用させていただき大変助かっています。
- ・他に見てもらおう方法がなかったため。
- ・職場で預かってもらえるということに安心感があつたから。
- ・大学で行われたセミナーに夫婦で参加するため。
- ・医局会参加のため。

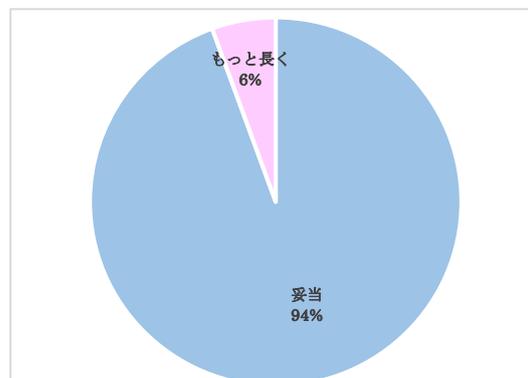
b. 利用してみて



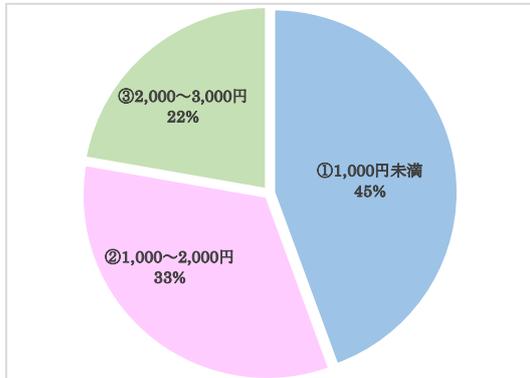
【理由】

- ・学童保育と同じ時期だったので、長女（小4）と一緒に過ごすことができ安心した。
- ・保育士さんが優しくてよかったです。
- ・何度も利用しているので、友達も増え先生方や場所にも慣れて毎日楽しく通うことができました。親としても安心です。
- ・二人の保育士に対応していただき、安心して預けることができました。
- ・他の子ども遊ばせたいので、利用する人がもっと増えると嬉しい。
- ・ベテラン保育士が2名ついてくださりお世話していただいたので大変ありがたかったです。
- ・十分な人数でみていただいたので、とても手厚いなど感じた。子供がどんな様子だったかも教えてくださったので安心できた。

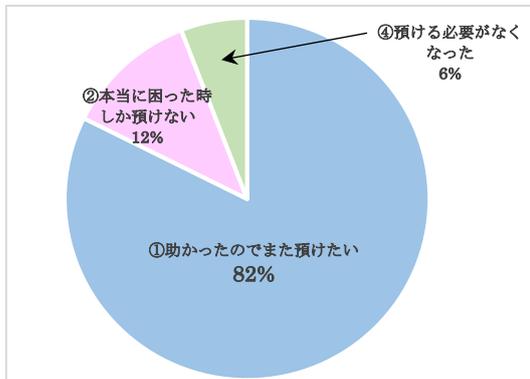
c. 保育時間



e.費用ほどの程度までなら一時保育を利用したいと思いませんか。(半日あたり)



f.検証事業期間内の利用について



g. 検証事業期間内の利用した感想について

- ・大変満足しております。保育者の方にも普段は気付けない子供の様子を教えていただいたり、御意見もうかがえ、大変ありがたかったです。ベテランの方で初日から安心して預けることができました。親子共に感謝しています。
- ・有料でもいいので、学外に出かけられる等の行事があればと思います。ぜひお願いできればと思います。
- ・期間が冬休みなので、短いのは仕方ないが、何かのイベントがあれば、もっと楽しく過ごせたのでは?と思う。
- ・体を動かす時間があって、大変良かったです。今後もそういった時間を設けてもらえればと思います。

- ・場所があまり保育所らしくないと思いました。スペースが限られているのは分かりますが、遊ぶスペース、食事スペース、お昼寝スペースなど、きちんと分けてないのはどうでしょうか。もう少し託児所らしく整備して欲しいです。
- ・大変お世話になり、ありがとうございます。今後も続けていただきたいです。
- ・夫の育児休業取得のため、私自身の職場復帰後、利用する必要がなくなり、1回のみとなりましたが、制度としては非常にありがたく、必要なものだと思います。特に、乳児の場合、大学内に保育施設があれば、休み時間に授乳しに行けるので助かります。
- ・夜間があると助かるし、当日の朝にすぐ預けられたらいい。

Q7. その他、仕事と子育ての両立において、ご苦労されていることがあればお聞かせください。

- ・仕事の帰りが遅くなることが多く、子供と接する機会が少ないのが悩みです。
- ・数年前まで大学院に通っていたので、仕事と学業と子育ての両立が大変でした。家族にしわ寄せが行きます。それを理解し、協力してもらえる家族がいるのでやっていけます。今は子供も小学生になり、お手伝いを進んでやってくれるなど、以前よりも助かっています。一番は家族、特に夫の理解があって、定時に帰ってもらえるとか、出張のときは子供をみてくれるとか、そういうサポートの体制があることではないでしょうか。そのために、感謝の気持ちを忘れないこと、家にいるときはスイッチを切り替えて母になるとかでしょうか。
- ・4月等の繁忙期に、子供の体調不良等が重なると、どうにも回らない状況となり、いつもとても困ります。

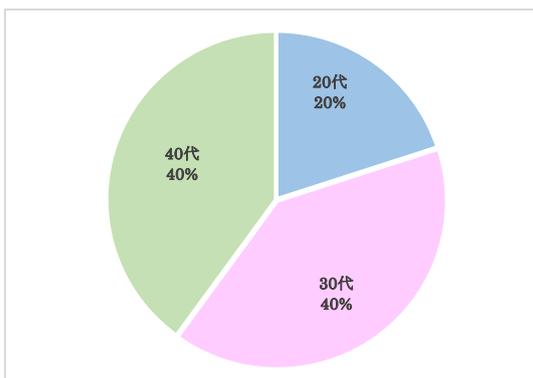
- ・お迎え→夕飯作り→お風呂→就寝までの時間の使い方。どうしても寝る時間が遅くなってしまふ。
- ・小学校にあがってからは途中で妻が就職しても学童に空きがないこと。
- ・有給休暇が少ないので、子供のための休みが取りにくい。(取るとすぐ有給休暇がなくなってしまう) 常勤は子供関係の休みは有給休暇扱いなのに、非常勤は無給休暇扱いなので、制度が

あっても使おうにもとても使いづらい。

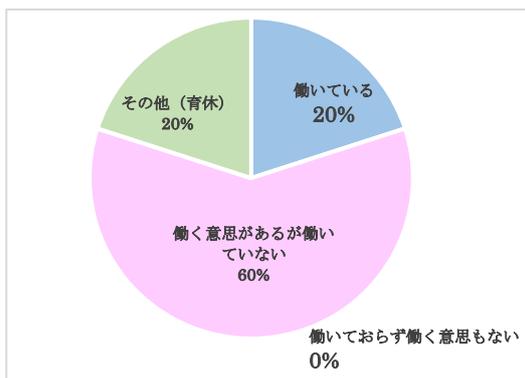
- ・オムツ替えスペースや授乳スペースがあると大変ありがたいです。
- ・会議が17時までに終わらない。
- ・今後、復職するにあたり、利用できる制度がわかりにくかった。情報収集能力が必要だと感じた。これから両立を進めていくところなので、今のところはまだ実感わいてない状態です。

## 2. 一時保育利用者 (学外一般)

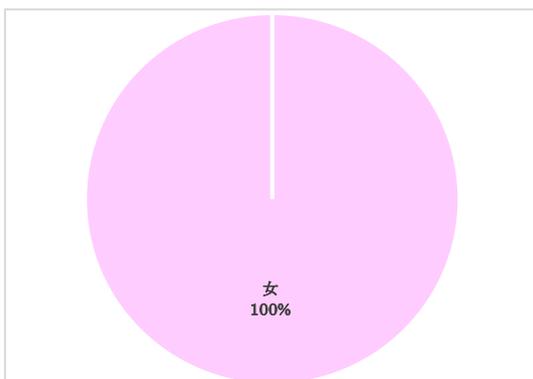
Q 1. 年代



Q 4. 現在あなたは働いていますか？



Q 2. 性別



Q 5. 現在の雇用形態について

正社員	0人
契約社員	0人
パートタイマー	0人
一時的なアルバイト	0人
自営業	1人
その他	0人

Q 3. 小学生以下の子供人数について

.....平均 1.6 人

Q 6. 現在働いている勤務労働条件について

a. 勤務時間

3 時間未満	1 人
3～4 時間程度	0 人
5～6 時間程度	0 人
7 時間以上	0 人

b. 勤務日数

週 5 日 (平日)	0 人
週 5 日 (土日を含む変則勤務)	0 人
週 3～4 日程度	0 人
週 2 日以内	1 人

Q 7. 現在の勤務先

ずっと同じ勤め先	0 人
転職した職場	1 人
退職後働いていない時期があったが現在は働いている	0 人

Q 8. 仕事を退職した理由

結婚	0 人
出産	3 人
介護	0 人
会社の都合	0 人
定年退職	0 人
自己都合	0 人
その他	0 人

Q 9. 転職・再就職した理由

子育てがひと段落した	0 人
介護がひと段落した	0 人
生活のため	0 人
自立のため	1 人
社会貢献のため	0 人
その他	0 人

Q 10. 働いていない理由

希望する条件に合う仕事がない	0 人
子育てのため	4 人
介護のため	0 人
家族の理解がない	0 人
健康上の理由	0 人
学生である	0 人
その他	0 人

Q 11. 仕事を選ぶときに優先する条件を 1 番から 3 番まで選んで、数字を記入する

1 位	仕事のやりがい	2 人
	職業・業種	2 人
	勤務時間	1 人
2 位	勤務時間	3 人
	勤務場所	2 人
3 位	仕事のやりがい	2 人
	給与	2 人
	勤務時間	1 人
	勤務場所	1 人

Q 12. 希望する勤務労働条件

a. 勤務時間

3 時間未満	0 人
3～4 時間程度	3 人
5～6 時間程度	1 人
7 時間以上	1 人

b. 勤務日数

週 5 日 (平日)	2 人
週 5 日 (土日を含む変則勤務)	0 人
週 3～4 日程度	3 人
週 2 日以内	1 人

Q13. 今後実施して欲しい就職支援策について

資格取得支援	1人
求人情報の提供	1人
個々の状況に応じた 求人開拓	1人
パソコン等の就職対策講座 やセミナー	2人
相談窓口の開設	1人
その他	0人
特になし	1人

Q14. 再就職・復職の際に不安に感じることはありますか？

ワークライフバランスの 両立ができるか	2人
家族が病気やケガの時の 対応	3人
仕事がこなせるか	2人
職場の人間関係	2人
ブランクが仕事に影響しな いか	2人
上司・同僚の理解や協力	1人
体力的な負担	1人
配偶者・家族の理解や協力	0人
上司からの評価	0人
保育園などの預け左記	3人

Q15. 復職後の昇格・昇進への意識

とても昇格・昇進したい	1人
やや昇格・昇進したい	0人
あまり昇格・昇進したくない	2人
昇格・昇進したくない	1人

Q16. 子育ての状況について

a. 通常勤務時の保育状況（小学生の場合は放課後）  
について

保育所	2人
幼稚園	3人
学童保育	1人
ベビーシッターや ファミリーサポートなど	0人
同居家族	0人
別居家族	1人
知人	0人
その他	0人

b. 通常時の保育が難しい場合、お子さんをみても  
らえる人が近くにいますか。

いる	1人
いない	3人

c. お子さんを預ける人との関係性について

同居家族	1人
別居家族	0人
知人	0人
その他	0人

d. お子さんをみてもらう人がいない場合の対応  
について

保育所で行っている一時保 育サービス	2人
民間ベビーシッター	0人
ファミリーサポート	0人
子供だけで過ごす	0人
その他	1人

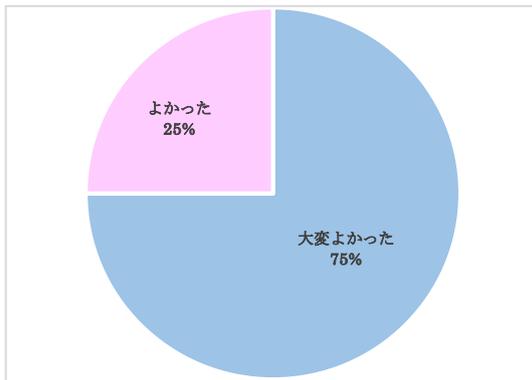
その他の理由：年休を取得する。

Q17. 今回の一時保育利用について

a. 利用した理由

- ・講習会参加。
- ・預け先がなかったため。
- ・セミナー参加のため。
- ・子育て講座をうけるため。

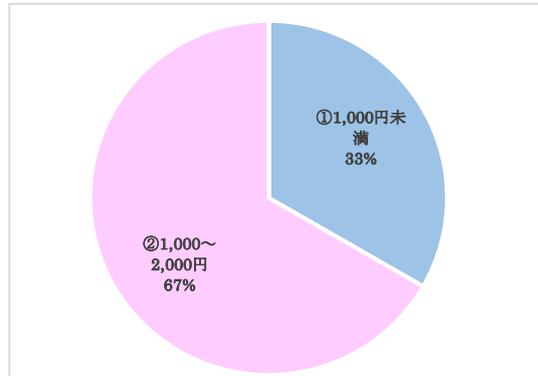
b. 利用してみて



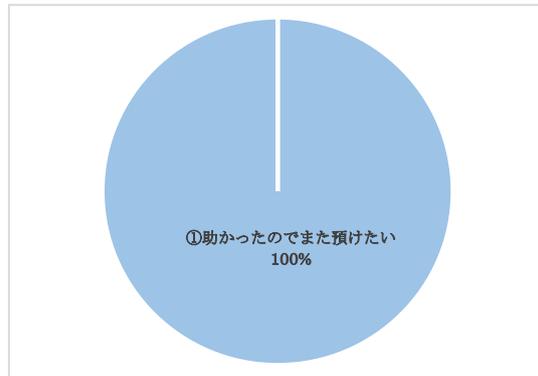
感想

- ・ゆっくり講義が受けられて大変良かった。
- ・講義に集中できて大変良かった。

f. 費用はどの程度までなら一時保育を利用したいと思いますか。(半日あたり)



g. 検証事業期間内



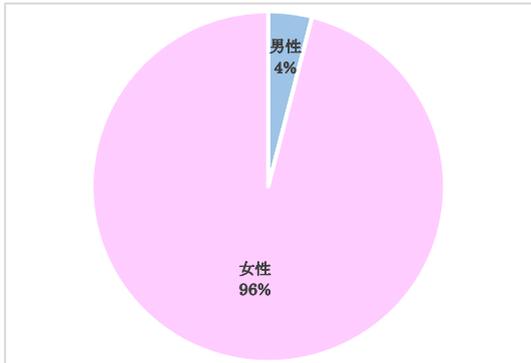
Q18. その他、仕事と子育ての両立において、ご苦労されていることがあればお聞かせください。

- ・本当に仕事をしないといけないのか？
- ・子育てはおろそかになってないのか？
- ・仕事と子育ての両立が必要なのか？
- ・これらはいつも考えているところです。私がアクティブに動いてしまうのでそこが不安です。

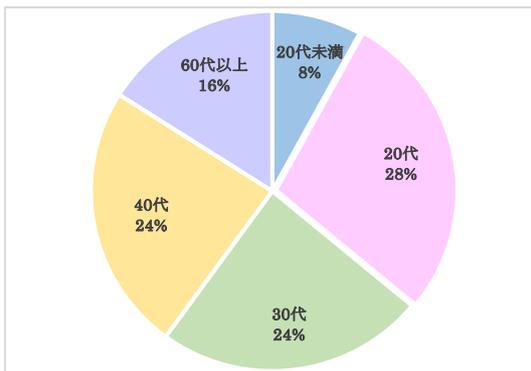
### 3. 保育サービス講習会（初級編）受講者

Q 1. 参加者数 25 名

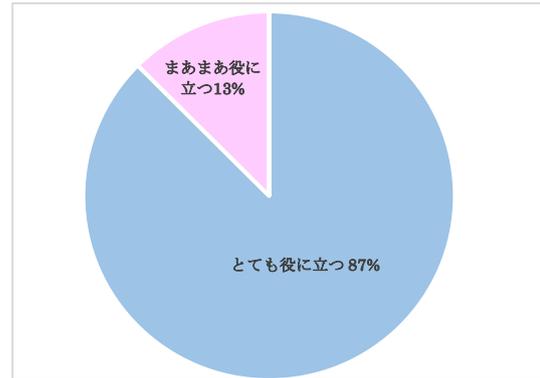
Q 2. 性別



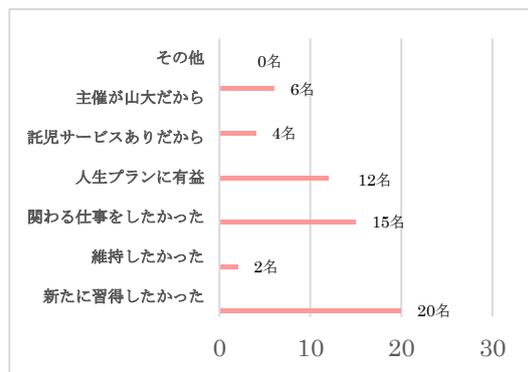
Q 3. 年代別



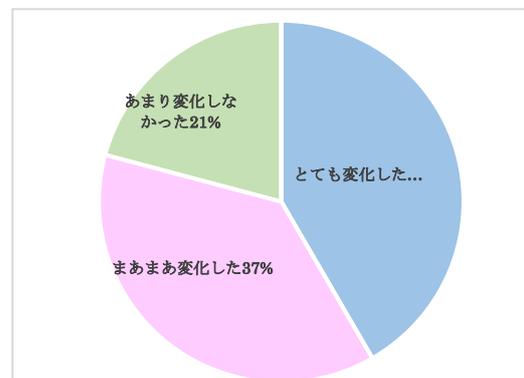
Q 4. 本講習会は、子どもに関わる仕事に携わりたいと思っている方、子育て経験のある方、子育て経験のある方が、保育や子育て支援事業に従事するために必要な知識や技術を習得または維持することに役立つと思われましたか。



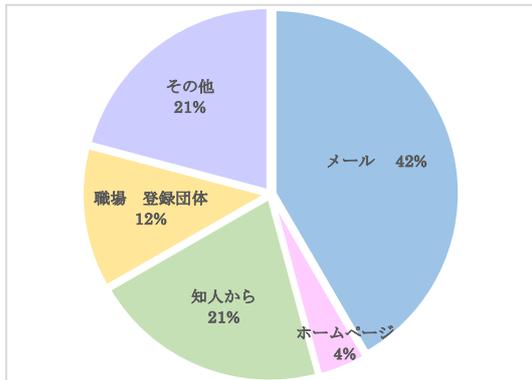
Q 5. 本講習への参加理由（複数回答可）



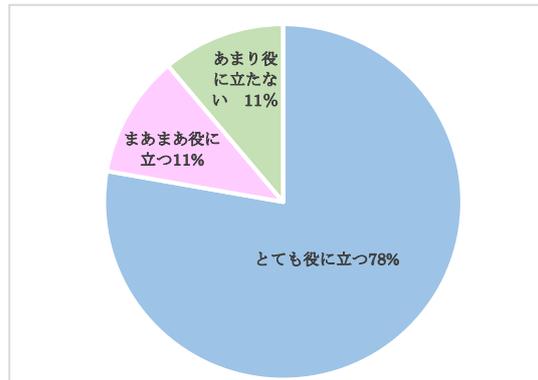
Q 6. 本講習参加前後の考え方の変化



Q 7. 本講習会をどのように知りましたか



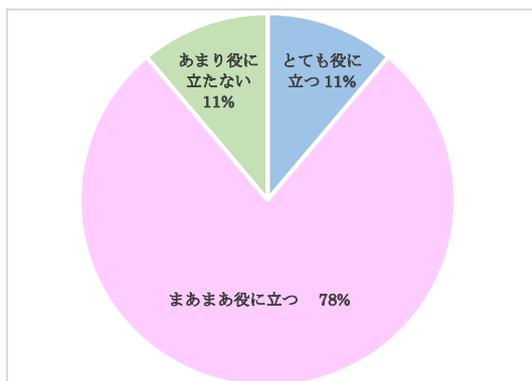
③自身の仕事と育児の両方の将来像



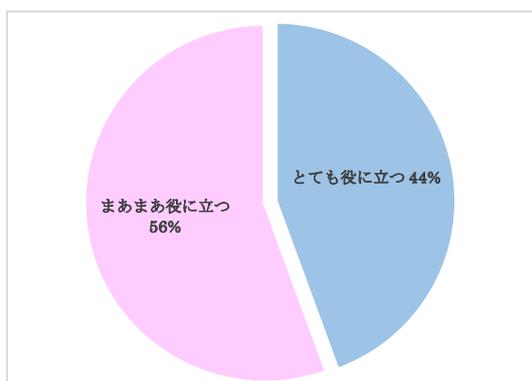
※Q 8については学生のみ回答

Q 8. 本講習は以下の意識を高める役にたちましたか？

①男女共同参画社会



②自身のキャリアデザイン



Q 9. 講習会の参加前後での考え方の具体的な変化

- ・一時預かりにおける健康管理と事故対策。子供が大きくなって忘れていたり気をつけられないといけないことがあった。
- ・体験談などが勉強になった。受け入れること、肯定することの基本姿勢が勉強になった。
- ・共有体験は、子ども、大人にとって大切だと思った。相手との信頼感・思い出を築くために重要な役割を持つと思う。自分自身もこれからこの体験を大切にしていきたい。
- ・私達の子育て時代と現代の子供の育て方の違いを知ることができた。忘れかけていた子供の成長とか保育者としてのあり方もいろいろと勉強になった
- ・人間関係のない中での、その場限りの「一時」保育というものの理念を知ることができた。これまでは、継続的な関係性の中での保育(教育)というもののことしか考えた経験がなかったのだ。
- ・自分の思いの中でまちがっていた部分に気がつくことができた。すぐにでも役立つ知識だった。
- ・いろんな子供を預かる覚悟ができた。
- ・自分の子どもともっと全力で遊んであげようと思った。
- ・小さい子と接したことがあったが、実際にどのよ

うな対応が必要なのかなど考えたことがなく、今日のお話を聞かせていただき深く考えるようになった。

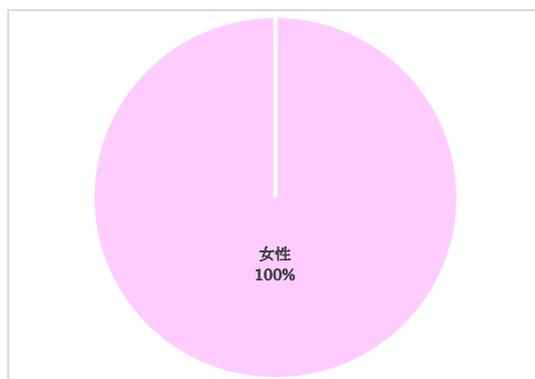
- ・一時預かり保育の実践者として心構えを強く持つことができた。実際の場面での危険回避や遊びの準備、ありのままを受け取ることなど、ひとつひとつ心にしみた。
- ・より子ども一人ひとりに関わっていく意識が持てた。
- ・まずは自身の子供との向き合い方を今一度見直したいと思う。
- ・保育サポーターとしての心構えを強く認識しました。また子どもとの関わりあいでも“遊びの中

で本気で遊ぶ”ことにより信頼関係が出来ること知り参考になった。

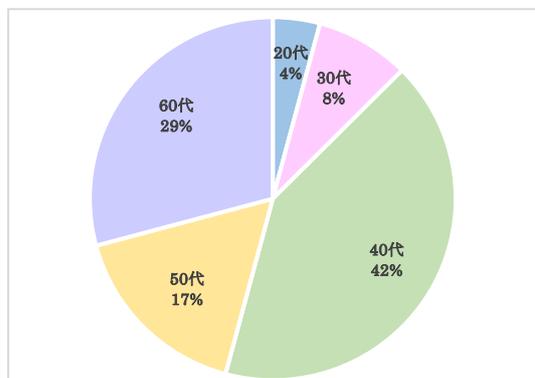
- ・今までに縁がなかった一時保育について知識を得ることができた。
- ・命を預かる重さを改めて感じました。
- ・自分の子どもと接する態度と比較して、母親としての生活を反省しつつ、改めていこうと思った。それが生かせるといいなと思う。
- ・(学童について) あらためて遊びって大切なのだなと思った。またわが子とずっと遊ぶ時間を持とうと思った。
- ・先生のお話はとてもわかりやすく現場での注意点などあり、興味をもっと持った。

#### 4. 保育サービス講習会（中級編）受講者

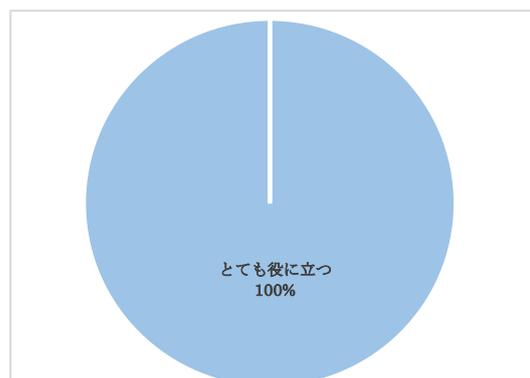
##### Q 1. 性別



##### Q 2. 年代別

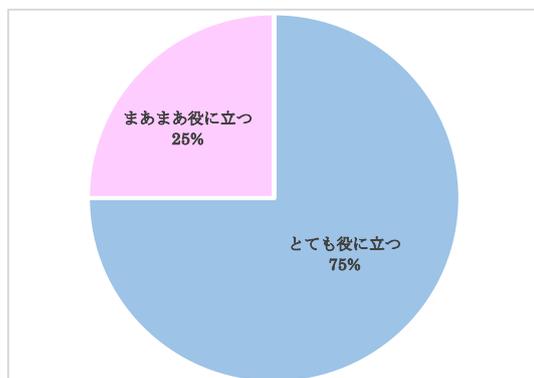


Q 3. 本講習会は、子供に関わる仕事に携わりたいと思っている方、子育て経験のある方が、保育や子育て支援事業に従事するために必要な知識や技術を習得または維持することに役立つと思われましたか。



※Q4については保育士資格保有者のみ回答

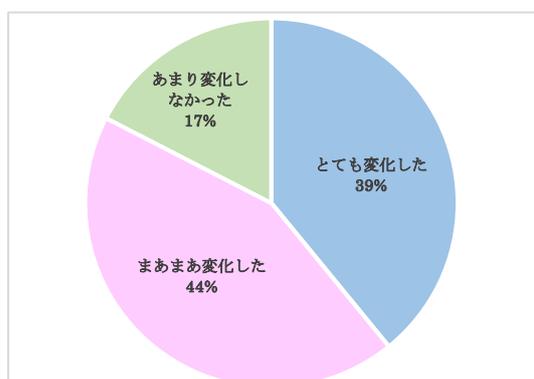
**Q 4. 本講習会は、保育士資格を活かしたいけれどブランクに不安を感じている方の不安を解消することに役立つと思われましたか。**



**Q 5. 本講習会への参加理由について。**

子供の保育のための知識や技術を新たに取得したい	24人
子育て支援団体に登録し、子育てに関する業務をしたい	12人
今後の職業や生きがいに關する人生プラン設計に有益	11人
子供の保育のための知識や技術の習得のため	8人
託児サービスがあったから	6人
主催が山口大学だったから	4人

**Q 6. 本講習会への参加前後で、ご自身の考え方に変化がありましたか。**



・子育て支援制度について理解を深めることがで

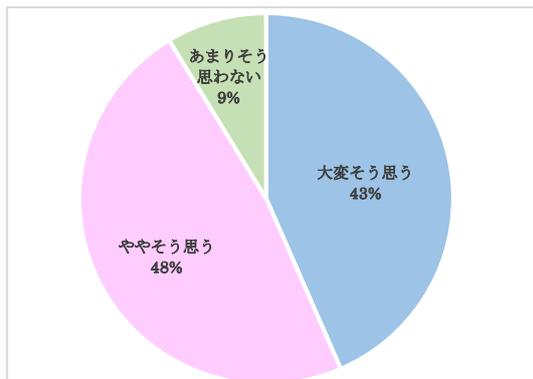
きた。

- ・山口市の状況がよく分かった。
- ・本講習中、天候不良で欠席した日がありましたが、DVD視聴や友人の励ましのおかげで、修了することができました。感謝します。
- ・実際に講習を受けて、子供の成長について改めて考えることができた。この行動は成長過程のものなんだ等、誤飲やケガ、事故に本当に注意しないといけないと気を引き締めた。
- ・保育士資格があるが、ずいぶん前に取ったものなので、知識を忘れてしまった。不安で自信が持てないところがあったが、この講習を受けて少し自信がついたのと、また改めて学びたいという意欲が出てきました。また、再就職に向けても少し前向きに考えられるようになった。
- ・子に対する接し方、保育の必要性を知った。また、障害や発達に対する理解が深まった。子はいかに保育者の愛情を必要としており、接し方一つで将来への影響が甚大であることを知り、保育サービスの厳しさ、やりがいを感じた。
- ・自分の子育てはしても、他人の子を預かったりするの、やはり不安がありました。講習を受けることで様々な知識体験を通して、少し前向きになれた気がする。
- ・新しい知識をもらえた。
- ・育児の考え方も時代の変化があることを感じた。日赤の小児看護の講義は実践的なお話で大変勉強になった。また継続があれば参加したい。
- ・自分自身のモチベーションが上がった。
- ・時代の変化とともに子育てのあり方というのが変わってきた面もある事を感じました。
- ・きちんと学んだうえで保育（託児）の現場で活動することが大切だとより感じた。1年に1回はスタッフ全員でこの様なスキルアップの研修が必要である。
- ・改めて自分を振り返ることができ、見直しができ

た。

- ・知らないことが多く、とても自分の勉強になった。
- ・改めて振り返ることができた。
- ・小児看護の内容がとても興味深く、もっと身に付けたほうが良いと思った。
- ・専門的なことから、実際の育児に参考になる具体的なことまで丁寧に説明していただき、勉強になりました。すぐに子供との関わりに役立てたいと思うことがたくさんありました。また、自分が間違っていたと気付かされることもあり、大変勉強になりました。
- ・新しい自分自身にとっての発見ができ、新鮮な気持ちでこれからの仕事内容を充実していきたい。

**Q 7. 本講習会は、子育てをしながら学びやすい環境でしたか。**



**Q 8. 女性が復職しやすい環境整備として何が必要ですか。**

- ・子供を預かってくれる場（特に児童や病児）がもっともっと増えてくれるといいのになと思う。
- ・家族の協力が必要。家庭での子育てについての一定の決まりが共通理解されていることが大事だと思う。勤務時間を緩くする。締め切りを限らない。
- ・家族の協力、健康など。自信につながる資格、経験。
- ・職場内託児所があると安心感が増すと思う。家事

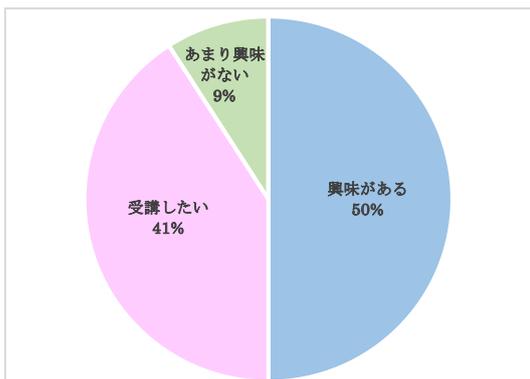
の負担をなくすようなことがあれば良い。

- ・育児・産休がしっかり取れること。子供を預ける場所があること。子連れでも働ける場を作ること。子供の急病などで休みやすいこと（豊富な人材の確保や、周囲の理解）。
- ・子が小さいと保育園に入れない（待機）ので、在宅ワークの紹介や指導。子育て世代の雇用をする使い手、良い会社とのマッチングの場の提供。
- ・子育て中の方はやはり託児や急な休みにも対応できる環境。
- ・希望は無料の託児が職場の近くにあれば良い。
- ・職場の理解、家族の協力など。保育環境の充実。
- ・職場、家庭の理解と協力体制。
- ・託児の充実（病気をしたときに完治まで（インフルエンザだと1週間前後）預けることが難しい）。
- ・時間や場所に縛られない環境。世の中がどう変わろうと現段階では家庭のある女性は家事、子育ての大半を担っていると言っても過言ではないため。
- ・託児等の子供の預け場所が確保してある事。急な病気や子供の用事で休みが取り易いこと。
- ・女性が仕事をする事で、お母さんの子供への愛情不足になりやすいと思いますので、安心して仕事ができる環境づくり。
- ・子育て環境を整えること。
- ・現場に戻る、あるいは社会参画のための助走の場が必要だと思う。自信を取り戻す、あるいはスキルアップを図るために学びの場を提供して欲しい。
- ・子供がいる場合は預かりのシステムが必要。
- ・フレックスタイムの導入。保育所（各事業所）があれば、働きやすいと思う。
- ・時短勤務があれば嬉しいです。
- ・特に子育て中の方は事業所に保育所があること、フレックスタイム、システムの充実。
- ・男性（夫）が子育てに参加しやすい職場であるこ

と。女性が職を持っていても子育てに後ろめたさがないこと（病気のときに休みやすい等）。

- ・時短, 急なときに即対処できるようにできれば良い（子供や家族の急な病気の時など）。
- ・フレックスタイム, 託児付きの職場。
- ・子供の急な病気などの時や, 急な休校などに対応してもらえるか。残業なし。
- ・託児所のある職場。
- ・どこかの託児所などと契約している職場。
- ・託児システムがしっかり整った職場である事。フレックスタイムの導入など。
- ・やはり勤務時間が一番気になる。

#### Q 9. 女性が復職・再就職しやすい環境整備として 大学が開催する再教育について



- ・保育士資格取得のための講座。
- ・このような講座があれば受講したい。
- ・事務職であれば実践的なPCスキル等（Excel, ワード, 関数計算, パワーポイント）。

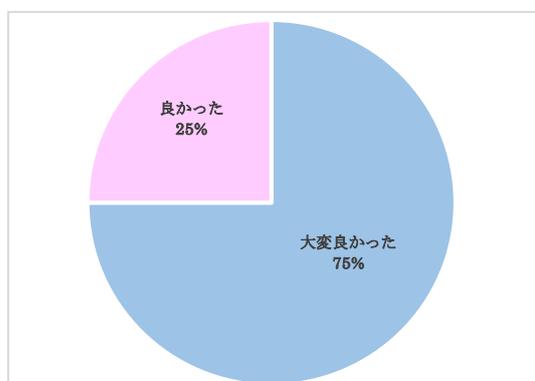
- ・まずは再教育とはどういうものなのかを聞いてみたい。興味があります。リカレント, 初めて聞いた言葉なので具体的な内容まで思いが及びません。
- ・再就職しやすくなる再教育なら, どんなものにも興味があります。思いつくのは, PC操作について, 在宅ワークについて, 簿記の再教育など。
- ・介護など。
- ・再就職に関して資格などを短期で取れるものがあれば良い。
- ・小児看護など。
- ・資格取得ができるもの。
- ・学び直しに限らず, 新たな分野への知識習得の機会には大変興味がある。
- ・自分のスキルに役に立つ内容。
- ・自分の学びたいスキルのための講座。あるいは資格取得のための講習。
- ・実技系の講座がしてみたい（何かを作りたい）。
- ・その時々の内容を見てからの動きになると思う。
- ・資格が取れる。新しい自分の発見ができる。復職・再就職につながる。
- ・小児看護について落ち着いて行動できるように知識が身につけば良いと思う。
- ・資格取得ができるような, また資格取得に役立つような。

## 5. 山大保育サポーター

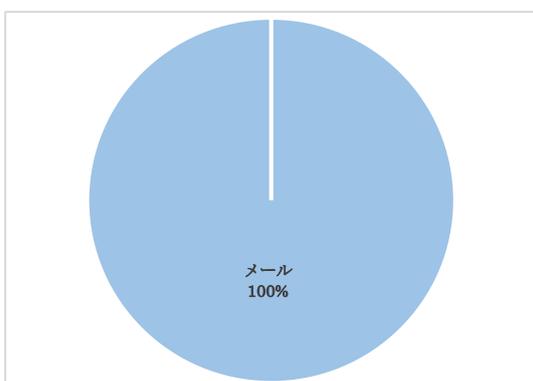
### Q 1. 学部

人文学部	4人
教育学部	3人
医学部	2人
経済学部	1人
理学部	1人

### Q 2. 本検証事業の「山大保育サポーター」に従事してみて



### Q 3. 山大保育サポーターを知ったきっかけ



### Q 4. 山大保育サポーターをしてみようと思った理由

- ・学内でできるアルバイトを探していて、保育など子供に関わる仕事に興味があったから。
- ・将来、子供に関わる仕事に就きたいので、その勉強にもなると思ったから。
- ・子供と遊ぶのが好きで、子供に関わる仕事を探

していたから。

- ・子供と接する機会が欲しかったからです。
- ・学内で従事できる点が魅力的だったから。

### Q 5. 山大保育サポーターの感想

- ・コアタイムの関係であまり就業できませんでしたが、とても勉強になる仕事だとおもいました。長期的に就業できたら尚良いと思います。
- ・実際に子供と関わってみて、はじめは分からないことばかりだったが、少しずつ慣れていくことができた。また、周りのサポーターさんも優しくしてくれて嬉しかった。
- ・小さい子供と関わることで、子供から教わることも多く、大変勉強になる時間です。とても楽しい時間を過ごさせていただいています。ありがとうございます。
- ・色々な年代の子供と触れ合えて、充実した時間を過ごすことができました。

### Q 6. 山大保育サポーターへの要望

- ・その日の保育士さんの情報や人数などの前情報があると心積もりができるかなと思いました。保育士さん側も学生の情報を知らないようだったので、名札みたいなものがあれば、コミュニケーションが取りやすいのかなとも思いました。
- ・山大保育サポーターに携われて良かった。
- ・学内で他の業務があれば、そちらもやってみたい。
- ・できればもう少し多くの日程で参加させていたきたいです。よろしくをお願いします。
- ・もっとたくさん従事できたらいいなと思いますが、他の学生にも大変人気があるとお聞きしています。今後も機会をいただけたなら、ぜひまた従事させていただきたいです。





## 国立大学法人山口大学 ダイバーシティ推進室

〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1

TEL 083-933-5997 FAX 083-933-5024

E-mail [ydpo@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:ydpo@yamaguchi-u.ac.jp)

URL <http://www.yamaguchi-u.ac.jp/institute/ydpo.html>